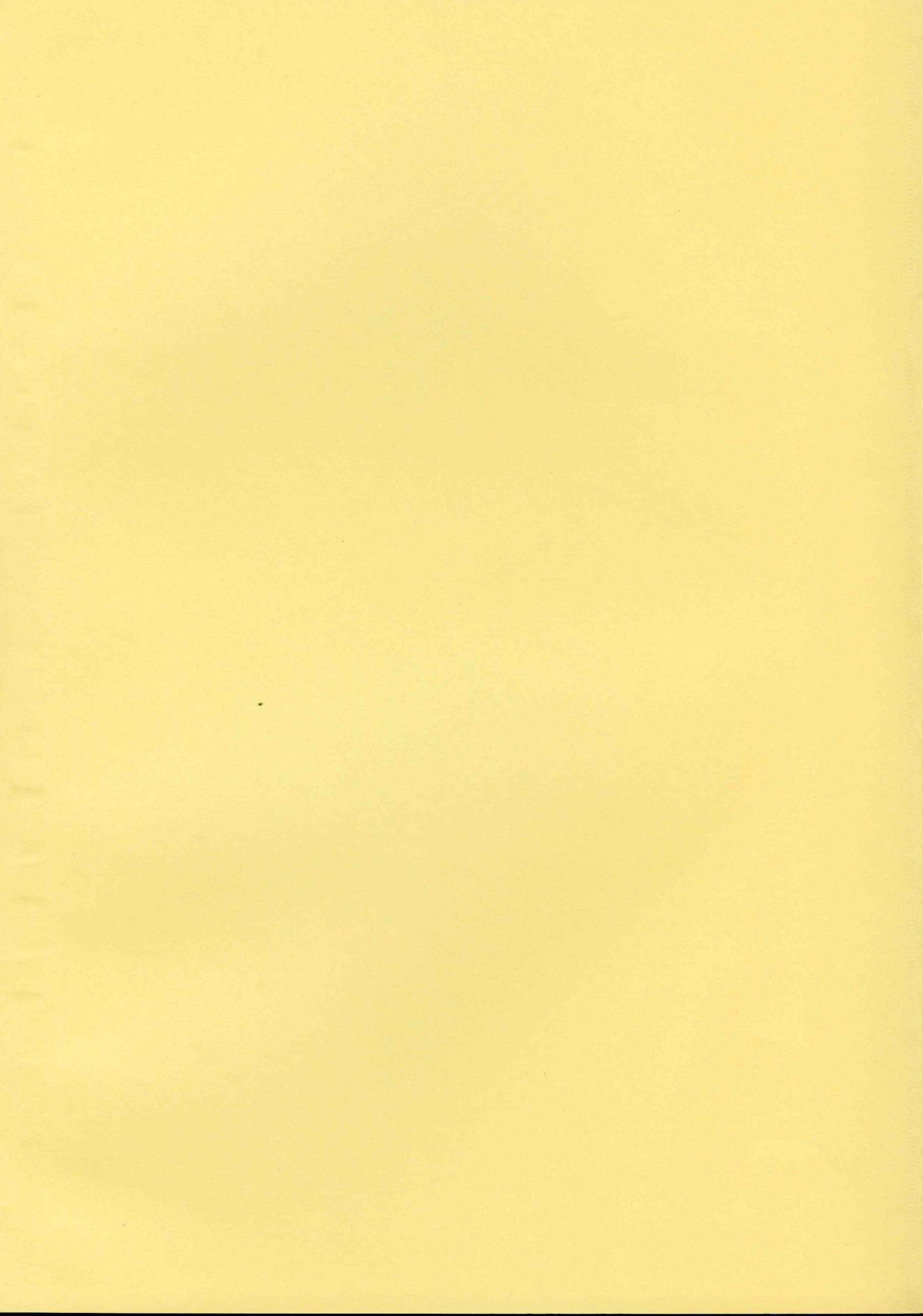


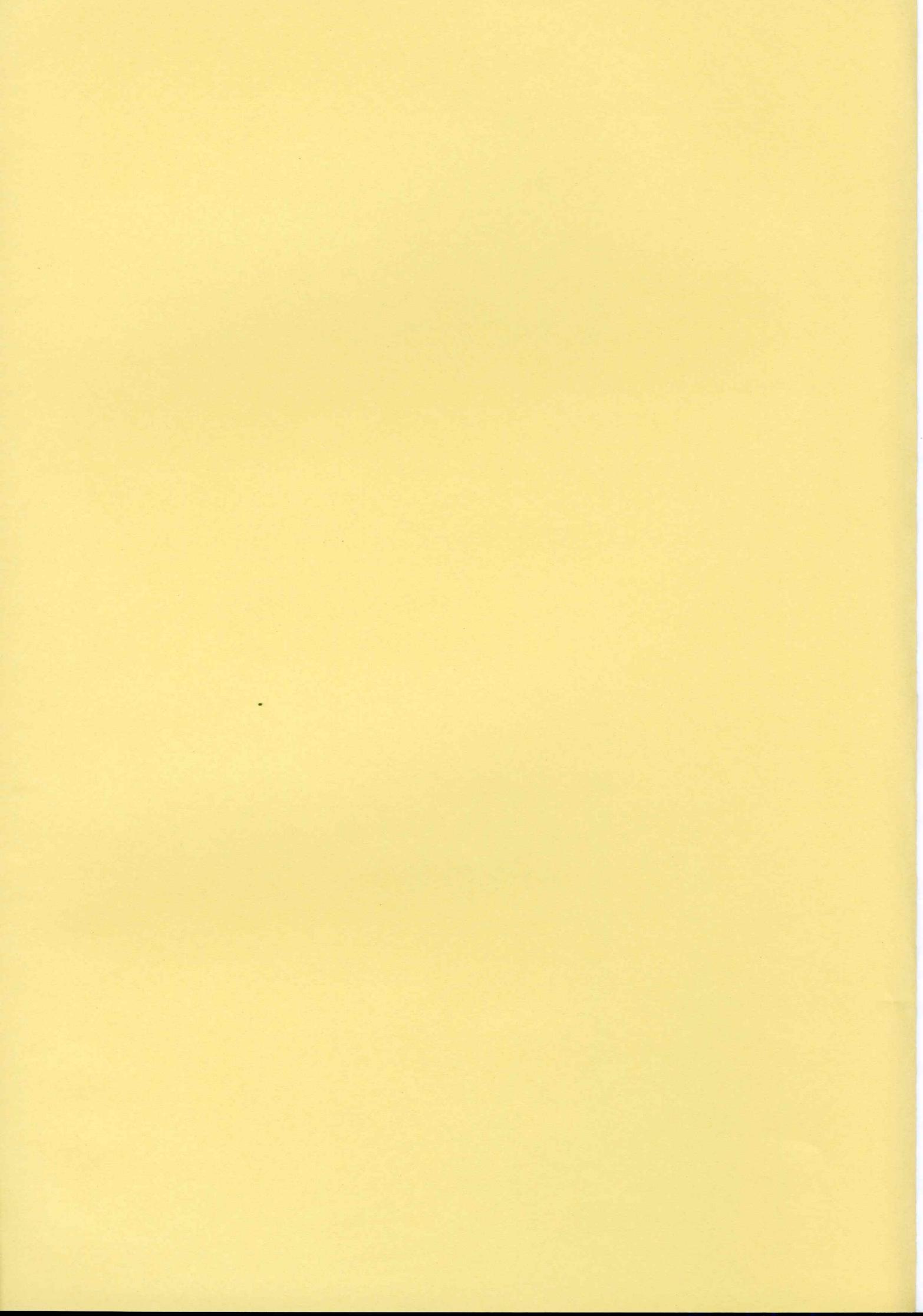


CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 NO.22

April 1995-March 1996
ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART







あさい ちゅう
浅井 忠 (1856~1907)

『漁婦』

1897年

油彩・キャンバス

57.7×83.5 cm

この作品は、房総半島南端の根本海岸（現在の白浜町）での取材を基に制作されました。

明治30年の第8回明治美術会展に出品された浅井忠の代表作の一つです。



(1921-1922) 生、死

（1921）

是時

大時代・大變

政治思想

目 次

ごあいさつ	1
沿革	2
平成7年度主要記事	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	20
企画展	24
普及事業	26
美術講演会・ミュージアムコンサート・教養講座とヨーロッパの旅	27
実技講座	28
情報資料室・活動協力	29
調査・収集事業	32
収蔵資料	33
管理運営	35
機構	36
平成7年度職員・協議会委員	37
利用状況	38
展示室利用団体	39
施設	43
関係法令等	47
利用案内	48

ごあいさつ

千葉県立美術館

平成7年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館として活動し、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてきております。

7年度は、特別展として、ロダンから現代彫刻への移行期を代表する作家として高く評価されているフランスの彫刻家の作品展「マイヨール展」と、東洋工芸史のなかで重要視されながら、これまで鑑賞する機会の少なかつた、紅型や陶器などの沖縄の工芸美術を総合的にとらえた「沖縄の工芸美術」を開催しました。企画展としては、房総の美術家シリーズで袖ヶ浦市出身の書家に焦点を当てた「高澤南総展」を開催し、その業績を顕彰しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を種々のテーマに基づき開催したほか、館外における移動美術館も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催するとともに、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに、「教養講座とヨーロッパの旅」を実施しました。その他、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成8年11月

千葉県立美術館長

森 成 吉

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた、同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

- | | |
|-------------|---|
| 昭和44年12月9日 | 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名） |
| 昭和45年1月19日 | 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される |
| 昭和45年7月24日 | 建設地として千葉公園に内定する |
| 昭和45年11月12日 | 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名） |
| 昭和46年3月31日 | 千葉公園内の美術館基本構想成る |
| 昭和46年6月24日 | 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
代案として千葉市中央港埋立地が提示される |
| 昭和47年1月5日 | 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する |
| 昭和47年3月31日 | 基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所） |
| 昭和47年7月31日 | 展示棟第1期工事の実施設計完了する |
| 昭和47年9月21日 | 展示棟杭打工事着工 |
| 昭和47年10月13日 | 展示棟建築工事請負契約議案可決される |
| 昭和47年12月10日 | 展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店） |
| 昭和48年4月1日 | 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる |
| 昭和48年11月30日 | 管理棟（第2期工事）の実施設計完了する |
| 昭和49年3月31日 | 展示棟竣工 |
| 昭和49年4月1日 | 千葉県立美術館発足する（職員14名） |
| 昭和49年10月23日 | 開館記念式典を行う |
| 昭和49年10月24日 | 開館記念展「千葉県美術展覧 |

- | | |
|-------------|--|
| 昭和50年2月21日 | 会」を開催一般公開を始める |
| 昭和50年3月13日 | 管理棟杭打工事着工 |
| 昭和50年3月16日 | 管理棟建築工事請負契約議案可決される |
| 昭和51年2月20日 | 管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店） |
| 昭和51年3月2日 | 管理棟竣工 |
| 昭和51年6月7日 | 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する |
| 昭和52年3月12日 | 寄附によって、正面玄関に植栽を行う |
| 昭和52年4月10日 | 彫刻の屋外展示を始める |
| 昭和53年1月18日 | 展示棟の一室に美術普及室を開設する |
| 昭和53年2月21日 | 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる |
| 昭和53年10月17日 | 美術普及棟の準備会が発足する |
| 昭和53年11月18日 | 美術普及棟建築予算が計上される |
| 昭和53年11月30日 | 浅井忠像完成除幕式 |
| 昭和54年1月8日 | 美術普及棟実施設計完了する |
| 昭和54年3月5日 | 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する |
| 昭和54年3月22日 | 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される |
| 昭和55年2月29日 | 県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店） |
| 昭和55年3月16日 | 県民アトリエ棟竣工 |
| 昭和55年4月1日 | 県民アトリエ棟完成記念講演会 |
| 昭和55年9月9日 | 千葉県美術品取得基金条例施行される |
| 昭和58年7月29日 | 県民アトリエ棟情報資料室を開設する |
| 昭和58年11月12日 | 美術普及コーナーを開設する |
| 昭和61年3月25日 | 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する |
| 昭和61年4月10日 | 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化 |
| 昭和61年4月23日 | 入口門扉4カ所設置 |
| 昭和61年8月12日 | 美術館西側沿道寄りの生垣植栽 |
| 昭和62年3月25日 | 講堂浸水防止工事 |
| | 機械室増築基本設計及び展示 |

中　　瑞　　運　　営　　主　　事　　業　　平　　成　　年　　度

棟，収蔵庫，機械室増築工事実施設計完了する	する
昭和62年10月15日	平成2年6月8日
展示棟，収蔵庫，機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所，施工・株式会社竹中工務店）	空調機改修工事完了する
昭和63年5月20日	平成2年9月29日
受水槽設備改修工事（地上式）着工	収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事着工
昭和63年8月31日	平成2年11月7日
受水槽設備改修工事（地上式）完了する	案内標識改修工事着工
昭和63年8月31日	平成3年1月31日
展示棟，収蔵庫，機械室増築工事完了する	収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事完了する
平成元年2月28日	平成3年2月20日
増築展示棟周辺芝張工事完了する	案内標識改修工事完了する
平成元年4月1日	平成3年12月6日
普及課が新設され，3課となる	空調用ポンプ改修工事完了する
平成元年4月20日	平成4年4月1日
開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する	運営の一部が（財）千葉県社会教育施設管理財団へ委託される
平成元年9月11日	平成4年10月20日
空調機改修工事実施設計完了	温湿度記録装置改修工事完了する
	平成4年12月18日
	食堂改修工事完了する
	平成6年7月23日
	開館20周年記念特別展「房総の美術」を開催する

平成7年度主要記事

4月1日	常設収蔵作品展「新収蔵作品」 「富取風堂の日本画」 (5月21日まで)	1月5日	常設収蔵作品展 「鶴田吾郎の世界」 「絵画に表現された風俗」 (2月25日まで)
5月16日	日本画講座 (5月31日まで 日数12日)	1月23日	「彫刻」 (4月14日まで)
5月27日	特別展「マイヨール展」 常設収蔵作品展 「フォンタネージとバルビゾン派」 (7月2日まで)	1月27日	金工講座 (2月7日まで 日数12日) 常設収蔵作品展 「堀江正章と旧制千葉中学の弟子たち」 (2月25日まで)
6月8日	洋画講座 (6月21日まで日数9日)	3月2日	常設収蔵作品展「浅井忠」 (3月24日まで)
6月10日	第1回美術講演会	3月16日	第4回美術講演会
7月1日	第1回教養講座		
7月4日	版画講座 (7月19日まで 日数12日)		
7月8日	常設収蔵作品展 「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」 「人物の表現」 「信田洋の金工」 (9月3日まで)		
7月15日	第2回教養講座		
7月24日	博物館実習 (7月29日まで 日数6日)		
7月25日	陶芸講座 (9月13日まで 日数7日)		
8月26日	第3回教養講座		
9月9日	第4回教養講座 特別展「沖縄の工芸美術」 常設収蔵作品展「陶芸の世界」 (10月8日まで)		
9月16日	ミュージアムコンサート		
9月30日	第2回美術講演会		
10月17日	彫刻講座 (11月1日まで 日数12日)		
11月11日	企画展「高澤南総展」 (12月17日まで)		
11月14日	書芸講座 (11月16日まで 日数3日)		
11月16日	企画展「第19回千葉県移動美術館」 (三芳村農村環境改善センター ヨーロッパの旅 (11月25日まで 日数10日)		
11月25日	常設収蔵作品展 「浜口陽三の版画」 (12月24日まで) 「石橋武治の風景画」 (1月21日まで)		
12月1日	企画展「第19回千葉県移動美術館」 (我孫子市民プラザギャラリー 12月13日まで)		
12月2日	第3回美術講演会		

展 示 事 業

常設収蔵作品展は、「富取風堂の日本画」「小堀進・中西利雄・不破章の水彩」「信田洋の金工」「鶴田吾郎の世界」「浅井忠」など、テーマ性をより強めた構成により開催した。特別展としては、「マイヨール展」と、他の県立美術館との共同企画による「沖縄の工芸美術」を実施した。

また、企画展として「房総の美術家シリーズ」

(24) 高澤南総展」と「第19回千葉県移動美術館」を三芳村と我孫子市で開催した。

常設収蔵作品展

「新収蔵作品」「富取風堂の日本画」

「新収蔵作品」では平成7年度新たに収蔵した日本画、洋画、彫刻、工芸、版画、書の作品を紹介した。
 「富取風堂の日本画」では、大正期から昭和にかけて、日本美術院（院展）で活躍し、県の美術振興に功績を残した富取風堂の画業を紹介した。

会期 平成7年4月1日（土）～5月21日（日） 44日間

展示点数 「新収蔵作品」 147点

「富取風堂の日本画」 32点

入場者数 18,235人

「新収蔵作品」			11	香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1912
12 馬鐸			12	香取 秀真	馬鐸	
13 美々豆久香爐			13	香取 正彦	美々豆久香爐	
14 錄銅四神文四方花瓶			14	香取 正彦	錄銅四神文四方花瓶	1952
15 からかね水注			15	香取 正彦	からかね水注	1964
16 金銅童形聖徳太子像			16	香取 正彦	金銅童形聖徳太子像	1969
17 銀黄銅錄分六方口花瓶			17	香取 正彦	銀黄銅錄分六方口花瓶	1972
18 銅花瓶			18	津田 信夫	銅花瓶	1972
19 玉装花瓶			19	津田 信夫	玉装花瓶	1975
20 錄銅花瓶			20	津田 信夫	錄銅花瓶	
21 天燈鬼像			21	津田 信夫	天燈鬼像	
22 竜燈鬼像			22	津田 信夫	竜燈鬼像	
23 達磨大師坐像			23	津田 信夫	達磨大師坐像	
24 小袖隨想			24	土肥 紅繪	小袖隨想	1992
25 蹲踞			25	土肥 満	蹲踞	1993
26 花かげ			26	深澤 範子	花かげ	1970
27 今日も明日も			27	宮之原 謙	今日も明日も	1983
28 シニヨリーア回廊			28	宮之原 謙	シニヨリーア回廊	1990
29 彩盛百合文壺			29	宮之原 謙	彩盛百合文壺	1974
14 <書>			1	石井 雙石	種竹齋	1948
2 陶犬瓦雞			2	石井 雙石	陶犬瓦雞	1952
3 a 午睡			3 a	石井 雙石	午睡	1954
b 故人今人如流水			b	石井 雙石	故人今人如流水	1954
4 月入斜窓曉寺鐘			4	石井 雙石	月入斜窓曉寺鐘	1956
5 游魚出水帰燕受風			5	石井 雙石	游魚出水帰燕受風	1957
6 養心王鉢			6	石井 雙石	養心王鉢	1960
7 虎威將軍章			7	石井 雙石	虎威將軍章	1961
8 南極大守			8	石井 雙石	南極大守	1966
9 a 五里霧中			9 a	石井 雙石	五里霧中	1955
b 半仙			b	石井 雙石	半仙	1968
10 a 碩鉢			10 a	石井 雙石	硕鉢	1970
b 雙石			b	石井 雙石	雙石	1970
11 碩			11	石井 雙石	硕	1949
12 碩印			12	石井 雙石	硕印	1949
<彫刻>						
1 安田 侃 天泉（マケット）						
<工芸>						
1 上野 斌郎 莓畠						
2 ハ 海						
3 ハ うず潮						
4 ハ 女の園						
5 ハ 草花						
6 ハ 収穫						
7 ハ 朝鮮風俗染色三曲衝立						
8 ハ 並木						
9 ハ 森の裸婦染色壁掛						
10 ハ 林間水浴染色壁掛						

常設収蔵作品展

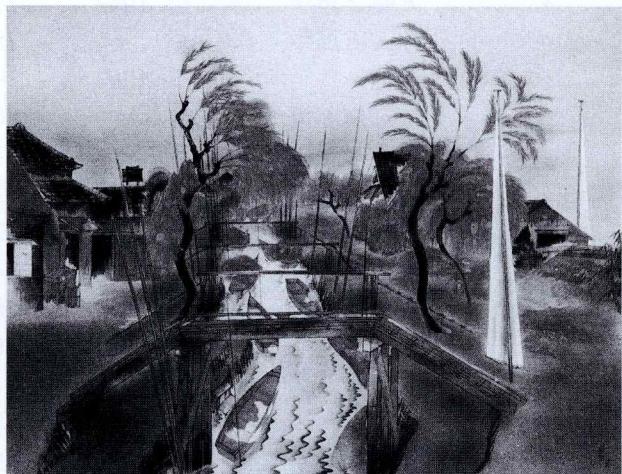
13	石井 雙石	醉碩	1949	58	石井 雙石	天衣無縫	1955~57
14	〃	不二山客	1951	59 a	〃	Tiger	1955~64
15	〃	碩鉢	1952	b	〃	左思右考	〃
16	〃	〃	〃	60	〃	富士(図)	〃
17	〃	子寛	〃	61	〃	人盡樂	1967
18	〃	雙石	1961	62	〃	牡丹記念	1965~74
19	〃	碩		63	〃	忠恕	
20	〃	〃		64	〃	林外雪消山色靜窓前春竹浅聲寒	
21	〃	〃		65	〃	一長一短	
22	〃	〃		66	〃	半仙玩窟藏	
23	〃	醉碩		67	〃	水廣魚游	
24	〃	井碩		68	〃	何因鉢	
25 a	〃	〃		69	〃	川	
b	〃	〃		70	〃	談藝論道	
26	〃	雙石					
27	〃	〃				※abのついた作品は両面印	
28	〃	雙石所作				※1~70までの印影は篆刻美術館(古河市)所蔵	
29	〃	延年益寿	1915				
30	〃	胡人入漢	1943	71	石井 雙石	一笑百印	1947
31	〃	盜瓜	1946	72	〃	〃	〃
32	〃	足以容膝	〃	73	〃	水廣魚游	1949
33	〃	解衣般礴	1951	74 a	〃	陶犬瓦雞	1952
34	〃	吟月	1952	b	〃	醉鄉侯印	〃
35 a	〃	醉鄉侯印	〃	75	〃	偶成(刀ヲ匣ラシ復タ~)	1954
b	〃	非心非佛	1960	76	〃	養心王鉢	1960
36	〃	天假之年	1952	77	〃	踏破千山萬嶽煙	1963
37	〃	与人風馬牛	〃	78	〃	故人今人如流水	1964
38	〃	洗竹	1953	79	〃	借宅亦種竹	〃
39	〃	無可無不可	〃	80	〃	碩鉢	1970
40	〃	春晚落華餘碧草	〃	81	〃	虎威將軍章	
41	〃	常山之蛇	〃	82	〃	『喜字壽印譜』	1952
42	〃	趺坐蹠	〃	83	〃	『幽竹山西下』	1953
43	〃	盃中蛇景	〃	84	〃	『甲午印蛻抄』	1954
44	〃	故弄諷詭	1953頃	85	〃	平安	1959
45	〃	木兄馬	1954	86	〃	至人只是常	1962
46	〃	清樂	〃	87	〃	人生一樂	1963
47	〃	木弟羊	〃	88	〃	いろは歌	1964
48	〃	穆如	〃	89	〃	山華水鳥皆知己	1967
49	〃	又得浮生半日間	〃	90	〃	清風自來	1969
50	〃	清風明月醉時歌	〃	91	〃	一笑百印由來	1947
51	〃	雙松在前軒	〃	92	〃	虎	1962
52	〃	中扁外閉	〃	93	〃	和敬清寂	1965
53	〃	樂在其申	〃	94	〃	樂	1966
54	〃	一笑	〃	95	〃	呑む	1967
55	〃	無為	〃	96	〃	一盃一盃復一盃	1968
56 a	〃	偶成(刀ヲ匣ラシ復タ~)	〃	97	〃	蝸牛画	
b	〃	吉陽	〃	98	〃	文史游觀(龜甲文習作)	
57	〃	有竹居	1961頃	99	金子 聰松	孟浩然詩	1992

常設収蔵作品展

100	福田 丞洲	摩訶般若	1993	15	花	1953
				16	花籠	1954
<版画>				17	残照	〃
1	浜口 陽三	貝	1960	18	初秋	1955
				19	晩秋	〃
「富取風堂の日本画」				20	魚と果	1956
				21	花	1957
1	游鯉（其一）		1928	22	蟹	1958
2	游鯉（其二）		〃	23	夕	1960
3	朝光		1931	24	駅路	1961
4	斜陽（夏すがた其一）		1936	25	暮色	1962
5	夜（夏すがた其二）		〃	26	雨の花	1963
6	葛西風景		1937	27	親子猿	1964
7	廐舎		1938	28	河畔	1965
8	漁村の初夏		1942	29	群魚	1967
9	秋の草		1943	30	麦秋	1971
10	仔馬		1949	31	初夏	1972
11	漁港の朝		1950	32	うすれ陽	1975
12	漁港の夕		〃			
13	夕顔		1951		※その他、スケッチ、模写、下絵など	
14	洋蘭		1952			



梅原龍三郎「純子像」



富取風堂「葛西風景」

「ファンタネージとバルビゾン派」

明治の初期に工部美術学校で美術教育を行ったイタリア人画家、アントニオ・ファンタネージと、彼が影響を受けたミレー等のバルビゾン派の作品を紹介した。

会期 平成7年5月27日（土）～7月2日（日）

展示点数 28点

入場者数 20,162人

〈洋画〉

1	ファンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860	15	ラヴィエ	川辺の風景	1867～95
2	〃	牛を追う農婦	1862頃	16	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61
3	〃	水汲み場風景	1863頃	17	コロー	ファンテンブローの風景	1830～35
4	〃	川辺の二頭の牛	1865頃	18	〃	ファンテンブローの石切場	1835～40頃
5	〃	森の空地の農婦	〃	19	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65
6	〃	木立	1870頃	20	ルソー	バルビゾンの農場	1850～55頃
7	〃	池と樹木	1870～72頃	21	デュプレ	森のはずれ	1860頃
8	〃	羊飼いの少女	1863～74	22	〃	嵐の前	1867～95
9	〃	神女之図	1878	23	ディアズ	森の中の農婦	1868
10	〃	風景1	1880	24	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1847
11	〃	風景2	1885	25	トロワイヨン	河辺の道	1860～65頃
12	ラヴィエ	たそがれ	1885	26	ジャック	森の中	1871
13	〃	モレステル風景	1867～95	27	クールベ	眠る人	1853
14	〃	モレステル風景(沼)	〃	28	〃	雪の中の小鹿	1869頃



ファンタネージ「森の空地の農婦」



ラヴィエ「モレステル風景」

常設収蔵作品展

「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」「人物の表現」「信田洋の金工」

「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」では、水彩画の発展に尽力した3人の作家に焦点をあて、それぞれの個性あふれる作品を紹介した。

「人物の表現」では、人物をモチーフとして表現した作品のなかから、特定の人物を記録的に表現したものや、人体の美しさを追求した作品などを紹介した。

「信田洋の金工」では、工芸の革新をめざし、近代感覚溢れる作品を発表して近代工芸界をリードした信田洋の作品を紹介した。

会期	平成7年7月8日（土）～9月3日（日）	50日間
展示点数	「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」	23点
	「人物の表現」	42点
	「信田洋の金工」	17点
入場者数	26,962人	

「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」

順位	作家	題名	年
1	小堀 進	高原	1951
2	タ	海（白浜）	1954
3	タ	南欧の丘	1962
4	タ	ロンドンの朝	1964
5	タ	雨後の山（信州）	タ
6	タ	山	1965
7	タ	霞ヶ浦	1973
8	タ	花と海	1974
9	タ	逆光	タ
10	中西 利雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930
11	タ	南仏風景	タ
12	タ	人物	1936
13	タ	四人の女	1939
14	タ	曇り日の離宮と駅	1947
15	不破 章	裁縫女	1943
16	タ	二女	1953
17	タ	三人姉妹	1956
18	タ	浴衣	1960
19	タ	白い砂	1967
20	タ	台湾農村風景	1970
21	タ	ルッセルスハイム	1974
22	タ	奥鬼怒の湯治場	1976
23	タ	麗日新宿御苑	1977

「人物の表現」

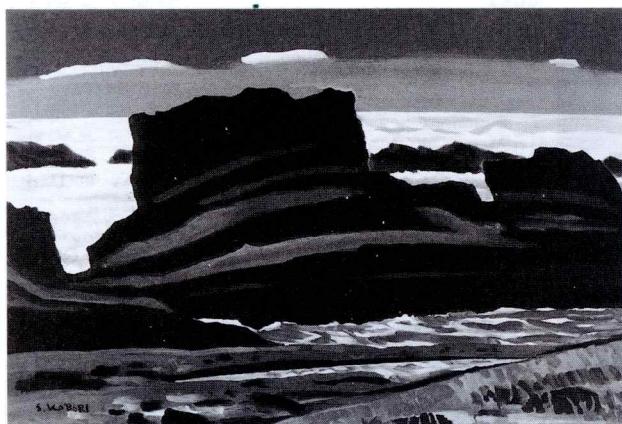
〈日本画〉

1	五十嵐 幹 華	1976
---	---------	------

〈洋画〉

1	足立源一郎	女性コスチューム	1912~25
2	タ	裸婦	タ
3	安藤 信哉	室内	1968
4	板倉 鼎	裸婦	1929
5	伊藤 順一	里	1992
6	小笠原豊涯	中井八重子像	1897
7	鹿子木孟郎	裸女と野花	
8	熊谷 文利	薬を飲む女祈祷師	1979
9	櫻井 晨正	Carrie	1990
10	笛岡 了一	放蕩息子の帰宅	1960
11	澤部清五郎	婦人像	1913
12	霜鳥 之彦	ロシアの女	1923
13	タ	緑のスウェーター	タ
14	タ	都鳥英喜像	1928
15	須田国太郎	デッサン（膝に腕を置く裸婦）	1940~46
16	田中志奈子	デッサン（棒を持つ裸体）	1905
17	田中善之助	パリの女	1921
18	椿 貞雄	自画像	1915
19	タ	横堀角次郎兄像	1921
20	鶴田 吾郎	アンドレ裸体	1932
21	中西 利雄	徳富蘇峰氏	1955
22	鳩川 誠一	マドマーゼルH(B)	1940~43
23	原 勝郎	人	1955
24	藤井外喜雄	デッサン(M)	
25	堀江 正章	自画像	1919
26	松澤 茂雄	西村房太郎像	1926~30
27	宮崎 丈二	海辺の裸婦	1981
28	安井曾太郎	自画像	1923
29	柳 敬助	デッサン(裸婦)	1907
30	柳 敬助	デッサン(腰かける裸婦)	

31	山谷 錄一	風	1970	「信田洋の金工」	
32	和田 英作	塚本靖肖像	1901		
33	ルノワール	少女像	1916~18		
<彫 刻>				1	黄銅花いらす
1	小倉惣次郎	伊藤博文像	1903~04	2	伸びゆく湾
2	〃	明治天皇像	1913頃	3	装瓶(樓)
3	高田 博厚	マハトマ・ガンジー	1960	4	黒孔雀の瓶
4	高村光太郎	裸婦座像	1916頃	5	透壺
5	舟越 保武	婦人像	1985	6	銀壺(花ひらく)
6	六崎 敏光	香風	1984	7	装瓶(六文錢)
<版 画>				8	帶装瓶
1	永瀬 義郎	もの想う天使	1973	9	立姿瓶
2	深沢 幸雄	寂しい訪問者	1988	10	赤銅張小管
				11	赤銅壺(作品73番)
				12	銀瓶(スクラム)
				13	乳装銀瓶
				14	銀瓶(マーキュリー)
				15	金彩壺
				16	金冠銅瓶
				17	透彫菖蒲文管



小堀 進「逆光」



信田 洋「金彩壺」

常設収蔵作品展

「陶芸の世界」

「陶芸の世界」では、宮之原謙をはじめとする各作家の様々な技法により表現された作品を紹介した。

会期 平成7年9月9日(土)~10月8日(日) 26日間

展示点数 20点

入場者数 20,889人

1	浅井 忠(図案)	農家風俗画手塗皿	1902~07	9	宮之原 謙	象嵌磁サボテン壺	1970
	清水六兵衛(制作)	(10点1組)		10	山本 正年	黎明	1953
2	浅井 忠(図案)	向付皿	〃	11	川上祥三郎	黄釉彫文花器	1961
	清水六兵衛(制作)			12	土肥 刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃
3	浅井 忠(図案)	桔梗文花瓶(2点組)	〃	13	土井 满	向いあう単体	1975
	河村 蜻山(制作)			14	横山光之介	戦碑	1976
4	浅井 忠(図案)	茶托(8点1組)	〃	15	土肥 紅繪	吹き去りて	1980
	河村 蜻山(制作)			16	三橋 英作	象嵌花器(展)	1984
5	津田 信夫	蜻蛉耳花生	1941~43	17	神谷 紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987
6	〃	鰐	〃	18	河村 蜻山	長方皿 雨・風・晴	
7	宮之原 謙	盛上磁葡萄唐草壺	1943	19	横山 朝陽	草花文搔落花瓶	
8	〃	彩地盛連葉文壺	1955頃	20	〃	牡丹紋搔落壺	



宮之原 謙「盛上磁葡萄唐草壺」



山本正年「黎明」

「浜口陽三の版画」「石橋武治の風景画」

「浜口陽三の版画」では、明暗と色彩の繊細な変化を特徴とするカラーメゾチントという独自の技法を開拓し、世界的な版画家として活動を続ける浜口陽三の作品を紹介した。

「石橋武治の風景画」では、風土性豊かな画風で水郷の風景を描き、本県の美術振興に貢献した石橋武治の作品を紹介した。

会期	「浜口陽三の版画」	平成7年11月25日（土）～12月24日（日）	26日間
	「石橋武治の風景画」	平成7年11月25日（土）～平成8年1月21日（日）	41日間
展示点数	「浜口陽三の版画」	48点	
	「石橋武治の風景画」	18点	
入場者数	34,709人（30,058人）	() 内は「浜口陽三の版画」会期中の入場者数	

「浜口陽三の版画」

1	レダ	1951	36	びんとレモンと赤い壁	1981～89
2	草花	1952	37	くるみ	1982
3	顔	1954	38	青いくるみ	1982～89
4	うさぎ	1955	39	びんとレモン	1983
5	西瓜	〃	40	編み棒	1985
6	したびらめ	1956	41	3匹の蝶	〃
7	パリの屋根	〃	42	3匹の蝶（15枚組）	〃
8	ういきょう	1958	43	野	〃
9	緑のぶどう	〃	44	緑のポプラ	1985～1989
10	魚とさくらんぼ	〃	45	カリフォルニア・チェリー	1987
11	ざくろ	〃	46	カリフォルニア・チェリー（7枚組）	〃
12	びんとくるみ	1959	47	22のさくらんぼ	1988
13	ピーマンのある静物	1960	48	マントリック・ミュージックⅡ（22のさくらんぼ7枚組）	〃
14	貝	〃			
15	白菜	〃			
16	ポプラ	1961	1	火口	1951
17	トリコット	1962	2	並木の道	1952
18	赤い鉢と黒いさくらんぼ	1966	3	白鷺のいる風景	1953
19	26のさくらんぼ	1971	4	筑波遠望	〃
20	くるみ	〃	5	早春	1954
21	赤い鉢	〃	6	水辺	1956
22	190と1匹	1975	7	雨の海	1957
23	2匹のてんとう虫	〃	8	高原の朝	1961
24	1/4のレモン	1976	9	水辺の家	1963
25	さくらんぼと青い鉢	〃	10	湖畔	1964
26	二匹の蝶	1977	11	砂山	1966
27	貝	〃	12	水辺	〃
28	毛糸	1978	13	水温む	1968
29	くるみ	〃	14	夜の富士	1969
30	3つのポプラ	1980	15	水辺初夏	
31	赤い蝶	1981	16	水郷	
32	西瓜	〃	17	細道	
33	緑の毛糸	〃	18	利根川	
34	ロビーナのさくらんぼ	〃	※7, 8, 9, 10, 18の作品は受託資料		
35	ロビーナのさくらんぼ（15枚組）	〃			

「石橋武治の風景画」

〈洋画〉

1	火口	1951
2	並木の道	1952
3	白鷺のいる風景	1953
4	筑波遠望	〃
5	早春	1954
6	水辺	1956
7	雨の海	1957
8	高原の朝	1961
9	水辺の家	1963
10	湖畔	1964
11	砂山	1966
12	水辺	〃
13	水温む	1968
14	夜の富士	1969
15	水辺初夏	
16	水郷	
17	細道	
18	利根川	

常設収蔵作品展

「鶴田吾郎の世界」「絵画に表現された風俗」「彫刻」

「鶴田吾郎の世界」では、国内はもとより、中国、ヨーロッパなどの旅を通じて作品を描き続け、戦後は山岳絵画の普及につとめた鶴田吾郎の作品を紹介した。

「絵画に表現された風俗」では、時代や地域によって様々な特徴を持つ人々の身なりや生活、あるいは生活の中で伝えられる儀式や風習を描いた作品を紹介した。

「彫刻」では、木やブロンズなど、様々な素材や技法によって表現された彫刻作品を紹介した。

会期 「鶴田吾郎の世界」「絵画に表現された風俗」

平成8年1月5日(金)～2月25日(日) 45日間

「彫刻」 平成8年1月5日(金)～4月14日(日) 83日間

展示点数 「鶴田吾郎の世界」 43点

「絵画に表現された風俗」 51点

「彫刻」 30点

入場者数 26,683人(16,549人)

()内は「鶴田五郎の世界」「絵画に表現された風俗」会期中の入場者数

「鶴田吾郎の世界」

29 存在 1965
30 小鳥たち ✕

31 初転法輪 1967

1 池袋風景 1911 32 山神 ✕

2 千川堤の桜 1912 33 お山の鈴音 1968

3 アムールのブラゴエンチエスク 1919 34 水温む ✕

4 乳しほり(チタ) ✕ 35 木をつくる

5 自画像 ✕ 36 潮音

6 女の横顔 1920 37 差木地

7 初秋 1921 38 芋堀り

8 婦人像 1935 39 海女

9 水汲み ✕ 40 網うつ男

10 蒙古の女 1937 41 麦打ち

11 廟と老人(張家口) ✕ 42 河口湖の富士

12 手紙を書く兵士 1939 43 中山競馬場

13 憶ひ出の広安門 1939頃

14 女子挺身隊(パラシュート工場) 1942 「絵画に表現された風俗」

15 アンコールワットと兵隊 ✕

16 裸婦 1947 「日本画」

17 富士山 1951 1 浅井 忠 田植之図 1889

18 中西悟堂氏 ✕ 2 ✕ ほしかき 1890~97

19 朝日連峰 1951~54 3 ✕ 人物風俗図 1902~07

20 桜夫 1952 4 ✕ 参詣 1906~07

21 鷹の巣の雪山 1954 5 ✕ 当世風俗五十番歌合(2番) 1907

22 秋田雨雀氏 ✕ 6 ✕ 当世風俗五十番歌合(7番) ✕

23 中沢弘光氏 ✕ 7 ✕ 当世風俗五十番歌合(15番) ✕

24 徳富蘇峰氏 1955 8 ✕ 当世風俗五十番歌合(28番) ✕

25 練習中の大交響楽団(レニングラードオーケストラ) 1958 9 大浦 掬水 獅子舞 1975

26 谷川岳 1959 10 大森 運夫 灯翳・肅宴 1970

27 説教 1962 11 小宮山 俊 沙羅の樹の下 1987

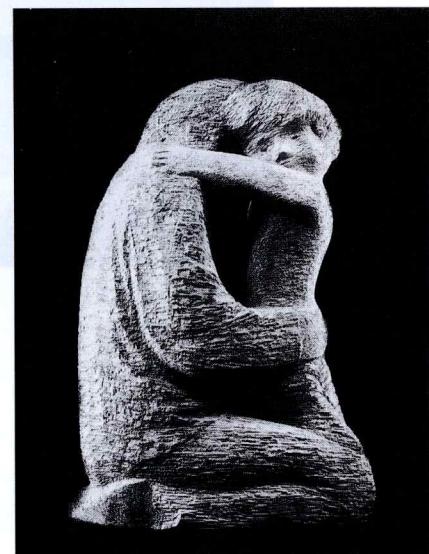
28 ヒマラヤ(ダージリン) 1962 12 高畑 郁子 メスティーソの女達 1977

常設収蔵作品展

13	富取 風堂	斜陽(夏すがた其一)	1936	5	大須賀 力	浅井忠像	1978
14	〃	夜(夏すがた其二)	〃	6	陰里 寿朗	構造上の森(街かもしれない)	1988
15	松村 乙彦	化粧	1947	7	木村賢太郎	立像	1956
16	〃	アイヌ	1955	8	〃	うごめくトルソーⅡ	1974
17	横尾 芳月	いで湯	1980	9	〃	うごめくトルソーVI	1975
18	〃	鏡獅子	1981	10	〃	海	1980
19	若木 山	常陸乙女	1948	11	工藤 健	愁いのマンドーラ	1991
20	〃	安房ノ海処女	1951	12	酒井 良	時を刻む	1985
21	〃	海女	1952	13	鈴木 徹	帰雲・春	1978
22	〃	三篭刈る信濃の女	1955	14	関 正司	IRON LADY	1982
23	〃	鏡	1957	15	零駒 無藏	過ぎし日のアパート	1989
24	渡辺 学	下総の海女		16	〃	集う人々の列に…	1991
				17	高田 大	リラックス	1984
〈洋画〉							
1	浅井 忠	パリ公園	1900~02	18	田中 毅	草枕の旅	1993
2	〃	欧州市場風俗	1903頃	19	中岡慎太郎	“FANTASY”	〃
3	〃	大原女	1902~07	20	中島 幹夫	風の肖像	1975
4	荒谷直之介	那覇の踊り子	1967	21	南部 治夫	時の流れに…(相)	1989
5	〃	大原女	1969	22	長谷川 昂	朝	1979
6	五十嵐光昭	涅槃の前で	1983	23	原 武典	水の中の太陽('82)	1982
7	石井 柏亭	老太々	1919	24	藤野 天光	銃後工場の護り	1938
8	〃	晩春行楽図	1938	25	〃	ああ青春	1962
9	〃	舞姫	1953	26	堀川 恭	聖なる佇立	1981
10	石橋 武治	泥かぶら	1959	27	六崎 敏光	暖流	1984
11	大久保作次郎	庭の木陰	1916	28	山崎 英五	地を這うものども XIV	1981
12	〃	海水浴帰り	1917	29	綿引 道郎	詩人一生を見つめて	1991
13	〃	山へ	1940	30	ブルデル	聖母子	1921
14	〃	ヤッホー	1949				
15	〃	お茶どき	1950				
16	〃	風	1955				
17	霜鳥 之彦	ロシアの女	1923				
18	田中志奈子	デッサン(大原女)	1905				
19	〃	デッサン(神官)	1905				
20	〃	デッサン(簪をもつ女)	〃				
21	椿 貞雄	春夏秋冬図屏風(春)	1931				
22	鴻川 誠一	花火	1955				
23	〃	祭	1965				
24	〃	サンマルコのカフェー	1970				
25	不破 章	バンコクの水辺市	1966				
26	〃	支那服の女	1969				
27	山谷 錫一	風	1948				

「彫刻」

1	青木三四郎	憩い	1984
2	池田 丈一	ひねくれた正12面体	1987
3	大国 丈夫	ヨガ	1984
4	大須賀 力	椅子の女	1975



長谷川 昂「朝」

常設収蔵作品展

「堀江正章と旧制千葉中学の弟子たち」

旧制千葉中学の美術教師として、多くの逸材を育てた堀江正章と、その教え子である石井林響、柳敬助、板倉鼎らの作品を紹介した。

会期 平成8年1月27日（土）～2月25日（日） 26日間

展示点数 26点

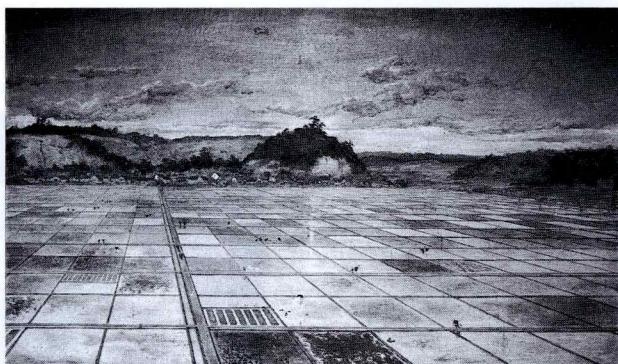
入場者数 10,916人

〈日本画〉

1	石井 林響	木華開耶姫	1906	12	大野 隆徳	蘇州留園の秋	
2	〃	高士觀瀑		13	菅谷元三郎	沼風景	1935
3	〃	梅花書屋		14	〃	母の像	

〈洋画〉

1	堀江 正章	耕地整理図	1901~02	17	浅井 真	岩B	1962	
2	〃	富士山	1922頃	18	〃	伊那	1970	
3	〃	花と少女	1928頃	19	国松 伽耶	港		
4	〃	西村房太郎像	1926~30	20	和田 清	秋きたる梓川	1949	
5	〃	西村房太郎氏祖母像	〃	21	遠藤 健郎	朝市	1975	
6	〃	鶴岡常太郎像		※2, 3, 11, 12の作品については他機関等からの借用				
7	柳 敬助	静物	1921頃	〈工芸〉				
8	〃	婦人像		1	青木 滋芳	洞門	1965	
9	〃	デッサン(腰かける裸婦)		2	〃	寂	1970	
10	大野 隆徳	公園	1912					
11	〃	裸婦	1938					



堀江正章「耕地整理図」



石井林響「木華開耶姫」

「浅井忠」

近代洋画の先駆者として大きな足跡を残した浅井忠に焦点をあて、「浅井忠とバルビゾン派」「浅井忠の作品と資料」「浅井忠関係作家」の3つの部門に分けて、作品と資料を紹介した。

会期 平成8年3月2日(土)～3月24日(日) 20日間

展示点数 201点

入場者数 6,565人

〈日本画〉

1	浅井 忠	狂女(付子規句)	1898頃	13	浅井 忠	房州白浜村	1887
2	〃	鍾馗図	1903	14	〃	藁屋根	1887頃
3	〃	韓信図	1907	15	〃	房州乙浜村	1888
4	〃	農耕の図	〃	16	〃	房州波太村	〃
5	〃	人物風俗図	〃	17	〃	白浜風景	〃
6	〃	盜賊	〃	18	〃	磐梯山の図	〃
7	〃	貼交屏風	〃	19	〃	磐梯山の図	〃
8	〃	琵琶法師	〃	20	〃	平城大仏鐘樓	〃
9	〃	当世風俗五十番歌合(2番)	〃	21	〃	房州白浜	1886～88
10	〃	当世風俗五十番歌合(7番)	〃	22	〃	本と花	1889
11	〃	当世風俗五十番歌合(15番)	〃	23	〃	小丹波村	1893
12	〃	当世風俗五十番歌合(28番)	〃	24	〃	平壤大同江煉光亭	1894
13	〃	草を摘む女たち	1902～07	25	〃	兵士	〃
14	〃	カルタとりの女児	〃	26	〃	旅順戦後の搜索	1895
15	〃	もろこしの図	〃	27	〃	金州城南門外	1894～95
16	〃	夕顔の図	〃	28	〃	貌子窩第二軍司令部	〃
17	〃	もろこしと鳳仙花	1904～07	29	〃	金州城壁上	〃
18	〃	風俗図(人足図)	1906～07	30	〃	漁婦	1897
19	〃	風俗図(参詣)	〃	31	〃	フォンテンブローの夕景	1901
20	〃	参詣	〃	32	〃	男性裸像	〃
21	〃	〃	〃	33	〃	フォンテンブローの森	〃
22	黒沼 槐山	花鳥図		34	〃	農婦	1902
23	田村 宗立	白衣觀音	1900	35	〃	農家	〃
				36	〃	西洋婦人	1900～02
				37	〃	〃	〃
				38	〃	パリ公園	〃

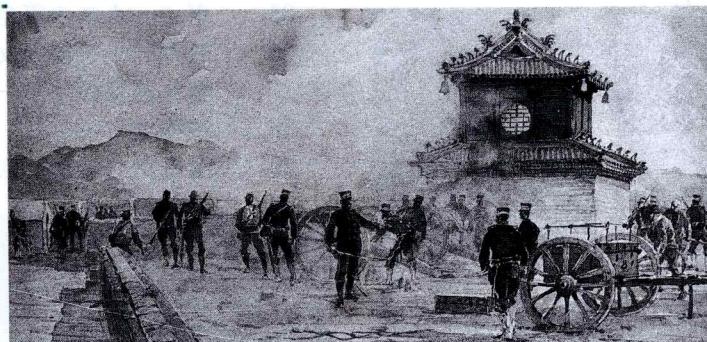
〈洋画〉

1	浅井 忠	少女	1877	39	〃	奈良郊外	1903
2	〃	印旛沼	1878頃	40	〃	京都高等工芸学校の庭	〃
3	〃	鍛冶橋	〃	41	〃	中沢岩太像	〃
4	〃	風景(1)	〃	42	〃	欧州市場風俗	1903頃
5	〃	風景(2)	〃	43	〃	巴里婦人	〃
6	〃	女の顔(模写)	1876～78	44	〃	東宮御所壁飾草稿(1)	1905
7	〃	沢入駅	1884	45	〃	東宮御所壁飾草稿(2)	〃
8	〃	溪流	〃	46	〃	オットセイの図	〃
9	〃	曳舟通り	1885	47	〃	花	〃
10	〃	鎌倉	〃	48	〃	大原女	〃
11	〃	房州白浜	1886	49	〃	老母像	1906
12	〃	〃	1887	50	〃	婦人像	1907

常設収蔵作品展

51	浅井 忠	樹Ⅱ	1902~07	99	フォンタネージ	池と樹木	1870~72頃
52	〃	樹V	〃	100	〃	神女之図	1878
53	〃	桶とせいろ	〃	101	〃	風景1	
54	〃	はたらく婦人	〃	102	〃	風景2	
55	〃	野菜		103	ミ レ 一	垣根に沿って草を食む羊	1860~61
56	〃	玉川		104	ラ ヴ イ エ	モレスティル風景	1867~95
57	〃	石膏臨画		105	〃	モレスティル風景(沼)	〃
58	〃	手々					
59	足立源一郎	カーニュにて	1912~25	〈工芸〉			
60	石井 柏亭	真間の入江(下図)	1904	1	浅井 忠	茶器「猿蟹合戦ノ図」	1902~07
61	〃	冬の朝(行徳)	1909	2	〃	茶器	〃
62	〃	聖フランチェスコ寺院	1923	3	〃	農家風俗画手塩皿	〃
63	石川欽一郎	赤城淡煙		4	〃	花瓶	〃
64	〃	水辺		5	〃	茶托	〃
65	伊藤 快彦	林檎		6	〃	桔梗文花瓶	〃
66	梅原龍三郎	竹窓読書図	1937	7	〃	図案皿	〃
67	〃	純子像	1968	8	〃	草花盆	〃
68	〃	皇居	1980				
69	小笠原豊涯	中井八重子像	1897	〈研究資料〉			
70	小川 千麿	港		1	浅井 忠	草書千字文	1866頃
71	加藤源之助	秋の山(大和初瀬村)	1908	2	〃	謝恵連雪賦	〃
72	鹿子木孟郎	風景		3	〃	槐庭時代綴	1869頃
73	国松 桂溪	仏国トルドンヌ	1923頃	4	〃	槐庭画帖	〃
74	黒田重太郎	浴後	1927	5	〃	筑波日記	1879
75	〃	女と小犬	1928	6	〃	従征画稿	1895
76	榎原 一広	収穫	1918	7	〃	彩画初步	1896
77	桜井 忠剛	バラ		8	〃	新按小学画手本	〃
78	澤部清五郎	婦人像	1913	9	〃	修正新案小学画手本	1900
79	霜鳥 之彦	都鳥英喜像	1928	10	〃	中学習画帖	〃
80	田中志奈子	デッサン(大原女)	1905	11	〃	欧州日記・附巴里日記	〃
81	田中善之助	パリの女	1921	12	〃	欧州日記別冊	〃
82	都鳥 英喜	男の顔	1908	13	〃	寒月水仙(表紙)	〃
83	〃	海浜風景	1909	14	〃	小学鉛筆画帖	1902
84	〃	洛北の早春	1934	15	〃	欧州時代スクラップ帳	1900~02
85	中林 優	けしの花		16	〃	渡欧時代使用手帳	〃
86	長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	1907	17	〃	図案草稿(画吉祥天)	1903
87	〃	晩秋	1909	18	〃	中学鉛筆画手本	1905
88	牧野 克次	松林		19	〃	月瀬紀行・薰世界	〃
89	松岡 寿	森と小川	1895	20	〃	新編自在画臨本	1906
90	間部 時雄	田園風景	1906	21	〃	訂正浅井自在画臨本	1907
91	三宅 克己	駿州三嶋在の緑陰	1947	22	〃	当世風俗五十番歌合(雲水他)	〃
92	安井曾太郎	熱海附近	1929	23	〃	当世風俗五十番歌合(ハンター他)	〃
93	和田 英作	塙本靖肖像	1901	24	〃	下絵「当世風俗五十番歌合40番」	〃
94	コロ一	フォンテンブローの石切場	1835~40	25	〃	下絵「ラッパを吹く物売り」	〃
95	フォンタネージ	牛を追う農婦	1862頃	26	〃	当世風俗五十番歌合	〃
96	〃	森の空地の農婦	1865頃	27	〃	牛と天神(A)	〃
97	〃	川辺の二頭の牛	〃	28	〃	図案画稿(渓流)	1902~07
98	〃	木立	1870頃	29	〃	図案画稿(人物2人)	〃

30	浅井 忠	図案画稿(春日野花瓶)	1902~07	48	浅井 忠	2号スケッチブック
31	ク	図案画稿(鉢の図)	ク	49	ク	3号スケッチブック
32	ク	図案画稿(モロコシの図)	ク	50	ク	4号スケッチブック
33	ク	図案画稿(風俗図)	ク	51	ク	5号スケッチブック
34	ク	図案画稿(女神図)	ク	52	ク	6号スケッチブック
35	ク	図案画稿(花瓶図)	ク	53	ク	7号スケッチブック
36	ク	図案画稿(魚の図)	ク	54	ク	8号スケッチブック
37	ク	図案画稿(花木)	ク	55	ク	自筆絵葉書
38	ク	図案画稿(木かげの女)	ク	56	ク	投影画法
39	ク	図案画稿(せんたくの女)	ク	57	黒沼 槐山	絵手本 1869頃
40	ク	図案画稿(戸棚図)	ク	58	ク	柘榴 1881
41	ク	図案画稿(菊花)	ク	59	塙本 靖	グレーの古城址 1901
42	ク	図案草稿(二人傘)	ク	60	ク	グレー風景 ク
43	ク	図案草稿(柿の実取り)	ク	61	ク	ロワン河畔 ク
44	ク	図案草稿(本装丁)	ク	62	ク	フォンテンブローの釣人 ク
45	ク	武士の山狩墨線画	1905~07	63	ク	フォンテンブロー宮殿 ク
46	ク	吉野紀行・錦世界	1908	64	和田 英作	絵葉書
47	ク	1号スケッチブック				



浅井 忠「金州城壁上」



浅井 忠「フォンテンブローの夕景」

特別展

マイヨール展

会期 平成7年5月27日(土)～
7月2日(日)
32日間
展示点数 93点
入場者数 7,442人

フランスの彫刻家マイヨールは、ロダンから現代彫刻への移行期を代表する作家として高く評価されている。

マイヨールの没後50年を記念する本展では、ロダンに絶賛された「レダ」などの代表的な彫刻作品を中心に、素描、版画を加えて紹介し、その芸術を回顧する機会とした。



〈彫刻〉

1 洗濯する女	1896	29 夏	1911
2 ヴィーナス(小)	〃	30 春	〃
3 レリーフ 座る女(波)	〃	31 夏(腕のない)	〃
4 座るトルソ	〃	32 春のトルソ	〃
5 林檎を持つイヴ	1899	33 裸のフローラ(小)	〃
6 立って髪を結う女	〃	34 セザンヌ	1912
7 跪く少女	1900	35 ヴィーナスの誕生	1918
8 女の頭部	〃	36 スカーフを纏う女	1919～20
9 立つ浴女(衣のない)	〃	37 垂れ前髪のヴィーナス	1920
10 台座の上で跪く女	〃	38 座る女	〃
11 跪く女	〃	39 座る女(透かし穴のある台座)	1920～21
12 横たわる女	〃	40 横たわる少女	1921
13 物思いに耽る女	〃	41 チュニックを纏うポモナ	〃
14 レダ	〃	42 衣を纏った浴女(ラ・セーヌ)	〃
15 目を覆う	〃	43 浴女(腕のない)	〃
16 着衣の座る女	〃	44 棘を抜く女	〃
17 下着をつけたトルソ	〃	45 ポール・ヴァンドル(記念碑のためのマケット)	1921
18 夜	1902	46 バーゼルの記念碑(マケット)	〃
19 <地中海>のための習作(小)	〃	47 ヴィーナス(腕のない)	1922
20 物思い(<地中海>のための習作)	〃	48 腕をひろげて立つ裸婦	1924
21 地中海のトルソ	1905	49 座る少女(1923年の<地中海>のための習作)	1925
22 とらわれのアクション	〃	50 イル・ド・フランス	〃
23 地中海	〃	51 イル・ド・フランス(腕のない)	〃
24 座るニンフ	〃	52 ドビュッシューのトルソ	1930
25 自転車乗りの少年	1907	53 ドビュッシュー	〃
26 ルノワールの肖像	〃	54 立って髪を結う裸の女	〃
27 着衣のフローラ(小)	〃	55 ニンフ	〃
28 立って髪を結う女	〃	56 うずくまる女	〃
		57 座る女	〃

58	ドビュッシュー	1930	76	嵐	1920
59	蟹と女	タ	77	衣を持って座る女	1927
60	衣を持って立つ少女	タ	78	『愛の技術』(アルス・アマトリア)	1928
61	マリーのトルソ	タ	79	テレーズのプロフィル	タ
62	マリー	1931	80	マリー	1931
63	花飾りのニンフ	タ	81	ディナ	1936
64	ニンフのトルソ	タ	82	座る女	タ
65	山(腕のない)	1933	83	横たわる少女(背面)	タ
66	フランス	1935	84	山	1937
67	座る少女(第2段階)	1936	85	衣を持って座るディナ	1938
68	衣を持って座る少女	タ	86	ディナ	タ
69	両腕を下げたポモナ	1937	87	立つ少女(背面)	1939
70	ディナ(動く台座)	タ	88	横たわるディナ	1940
71	手	1938	89	座るディナ	1941
72	アルモニー(第1段階)	1940			
73	三編みのディナ	タ			

〈素描〉

74	マイヨール夫人	1896	90	洗濯する女	1895
75	洗濯する女	1920	91	庭に腰かける二人の女(一人がギターを奏でる)	タ
			92	野外コンサート	タ
			93	波	1898



「レダ」



「チュニックを纏うポモナ」

特別展

沖縄の工芸美術

会期 平成7年9月9日(土)～
10月8日(日)

26日間

展示点数 97点

入場者数 5,693人

沖縄県立博物館の所蔵作品を中心に、東洋工芸史のなかで高く評価されながら、これまで鑑賞する機会の少なかった18世紀から19世紀の沖縄の工芸美術の作品を「漆器」「陶器」「紅型」「織物」の4つの分野により、紹介した。また、同じ黒潮文化圏にある沖縄と房総との関連を考えるために、紅型と同じ技法で製作される房総の万祝をあわせて展示了。

なお、本展は、奈良県立美術館・長野県信濃美術館との共同企画である。

〈漆 器〉

- 1 朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金椀
- 2 朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金天目台(蓋付)
- 3 朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金食籠
- 4 朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金化粧小箱
- 5 朱漆巴紋鳳凰七宝沈金丸櫃
- 6 黒漆雲双竜螺鈿丸盆
- 7 黒漆雲双竜螺鈿椀(蓋付)
- 8 黒漆遊雁芦螺鈿料紙箱
- 9 潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱・硯箱
- 10 朱漆樹下群仙螺鈿堆錦六稜花形合子
- 11 黒漆祥瑞螺鈿楊子容
- 12 潤塗雲鶴螺鈿香合
- 13 黒漆群馬遊雁螺鈿印籠
- 14 黒漆仙人遊棋花鳥螺鈿茶箱 茶巾筒・棗付
- 15 黒漆山水人物行楽図螺鈿飾棚
- 16 黒漆山水楼閣人物七宝螺鈿八角食籠
- 17 黒漆鳳凰牡丹螺鈿馬上盃
- 18 朱漆箔押蝶漆絵網代花弁形東道盆
- 19 朱漆山水楼閣人物箔絵菊花形食籠
- 20 朱漆山水楼閣人物箔絵丸形東道盆
- 21 潤塗松竹梅鶴亀箔絵捌箱
- 22 朱漆山水楼閣人物堆錦椀
- 23 朱漆山水楼閣人物堆錦丸形東道盆
- 24 朱漆山水楼閣人物堆錦八角東道盆
- 25 黒漆薔薇堆錦軸盆
- 26 朱漆菊唐草堆錦螺鈿台
- 27 朱漆竜花鳥密陀絵箔絵野弁当

沖縄の工芸美術

Crafts of Okinawa

1995年9月9日(土)～10月8日(日)

[入場料] 一般700円(400円)/高・大学生400円(250円)

小・中学生200円(70円)

【休館日】 9月14日(火)・10月1日(火)

【会場】 沖縄県立博物館(那覇市安里1-1-1)

【主催】 沖縄県立博物館

【協賛】 沖縄県立博物館

【後援】 沖縄県立博物館

千葉県立美術館

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



〈陶 器〉

- 1 壺屋焼 赤絵枝梅竹文椀
- 2 湧田焼 色象嵌栗絵菊花皿
- 3 壺屋焼 白釉黒流からから
- 4 壺屋焼 赤絵対瓶
- 5 象嵌やはた文渡名喜瓶
- 6 壺屋焼 赤絵山水急須
- 7 湧田焼 掛分徳利
- 8 壺屋焼 緑釉流対瓶
- 9 湧田焼 鉄絵椀
- 10 壺屋焼 焼締白差屋根獅子
- 11 壺屋焼 吳須絵山水竹文筒花生
- 12 壺屋焼 二彩流筒花生
- 13 壺屋焼 緑釉花弁型盛皿
- 14 壺屋焼 鉢釉流飛鉢火取
- 15 壺屋焼 緑釉椀
- 16 壺屋焼 油甕
- 17 壺屋焼 釘彫抱瓶
- 18 壺屋焼 緑釉嘉瓶
- 19 壺屋焼 鉢釉流なまこ釉香炉
- 20 壺屋焼 なまこ釉からから
- 21 湧田焼 葉柳文徳利
- 22 壺屋焼 吳須絵山水文丁字風炉
- 23 壺屋焼 赤絵魚文皿
- 24 壺屋焼 黒釉巴文嘉瓶
- 25 知花焼 黒釉瓶子
- 26 古我知焼 水甕
- 27 壺屋焼 上焼壺型厨子甕

- 28 壺屋焼 上焼本御殿型厨子甕
 29 壺屋焼 上焼ツノ型厨子甕
 30 壺屋焼 上焼コバルト掛厨子甕
 31 壺屋焼 底つき焼締壺型厨子甕

〈紅型〉

- 1 絹・浅地桜楓散らしに花の丸模様胴衣
 2 木綿・葡萄色地青海波に波頭草花模様衣裳
 3 木綿・黄色地松皮菱に扇団扇牡丹模様胴衣
 4 木綿・黄色地松竹梅牡丹模様胴衣
 5 麻・浅地梅柳に牡丹模様衣裳
 6 麻・浅地流水に草花模様衣裳
 7 麻・浅地家に蝶小花模様衣裳
 8 麻・浅地鶴に松梅模様衣裳
 9 木綿・花色地蝶桔梗模様衣裳（裏／紺地無地）
 10 木綿・浅地流水に菊団扇模様衣裳（裏／花色地紅型）
 11 桐板・白地菊菱繫に菊桜葵流水模様衣裳
 12 木綿・花色地葦繫に遠山松梅鶴模様袴衣裳
 13 麻・白地霞に鶴松竹梅楓模様子供着
 14 麻・浅地流水に貝藻海楓模様子供着
 15 木綿・浅地霞に枝垂桜模様衣裳
 16 麻・浅地笠に藤流水に蛇籠桜葵菖蒲小鳥模様衣裳
 17 木綿・染分地山波に鶴松竹梅模様子供着
 18 木綿・染分地鶴松菊模様子供着
 19 木綿・白地稻妻に流水桜紅葉小鳥模様衣裳
 20 木綿・染分地松梅鶴模様衣裳
 21 木綿・緋色地波頭山桜模様衣裳
 22 麻・浅地流水に菊芦雁模様衣裳
 23 麻・浅地流水に紅葉若松模様衣裳
 24 木綿・黄色地雲に牡丹尾長鳥と菊模様衣裳
 25 紺黄色地霞に枝垂桜と流水に蛇籠桜葵菖蒲小鳥模様袴衣裳
 26 茅麻・浅地鶴に梅雪持笹模様
 27 桐板・紺地貝藻に桜楓羽散らし模様衣裳
 28 木纏地霞に梅枝垂桜と流水に蛇籠桜葵菖蒲小鳥模様袴衣裳
 29 麻・緑地流水に菊牡丹葵模様紅型風呂敷
 30 麻・紺地鶴亀松竹梅模様紅型風呂敷
 31 麻・紺地三ツ巴紋に松竹梅模様紅型風呂敷



朱漆山水楼閣人物箔繪丸型東道盆
沖縄県立博物館蔵

- 32 麻・紺地三ツ巴紋に牡丹模様紅型風呂敷
 33 麻・紺地二ツ巴に桜模様紅型風呂敷
 34 紅型型紙

〈織物〉

- 1 木綿・紺地読谷山花織ティサジ
 2 ク
 3 ク
 4 ク
 5 木綿・紺地絢模様ティサジ
 6 木綿・白地絢模様ティサジ
 7 木綿・紺地グーシ花織ミニサー帯
 8 木綿・グーシ花織ミニサー帯
 9 麻・白地八重山上布
 10 木綿・浅地格子に絢スディナ
 11 木綿・紺地読谷山花織衣裳（裏／黄色地紅型）
 12 木綿・紺地読谷山花織胴衣
 13 木綿・紺地読谷山花織踊衣裳
 14 ク
 15 木綿・浅地手縞上衣（裏／浅地綾中）
 16 木綿・紺地綾中衣裳
 17 木綿・紺地手縞上衣
 18 木綿絹・紺地手縞上衣
 19 木綿・紺地縞に緯絢上衣
 20 茅麻・紺地緯絢色入り子供衣裳
 21 麻・浅地経縞に絢上衣
 22 麻・白地経縞に絢上衣
 23 芭蕉・朱地経縞上衣
 24 芭蕉・花色地経縞衣裳
 25 絹木綿・浅地ロートン織上衣
 26 木綿・浅地ロートン織衣裳
 27 桐板・白地綾中衣裳
 28 木綿・浅地花織格子袴衣裳
 29 木綿・白地紺絢衣裳
 30 茅麻・白地紺絢衣裳
 31 裂類（絢模様）
 32 御絵図

所蔵機関等

- 沖縄県立図書館
 沖縄県立博物館
 鐘紡株式会社
 東京国立博物館
 日本民芸館
- No.75
 No.1~60, 62~70, 72~74, 76, 77, 88, 90~101,
 103~109, 111~113, 115~117, 119, 125, 126
 No.61, 78~80, 84, 87
 No.81~83
 No.71, 85, 86, 89, 102, 110, 114, 118, 120~124

企画展

房総の美術家シリーズ (24)

高澤南総展

会期 11月11日（土）～12月17日（日）

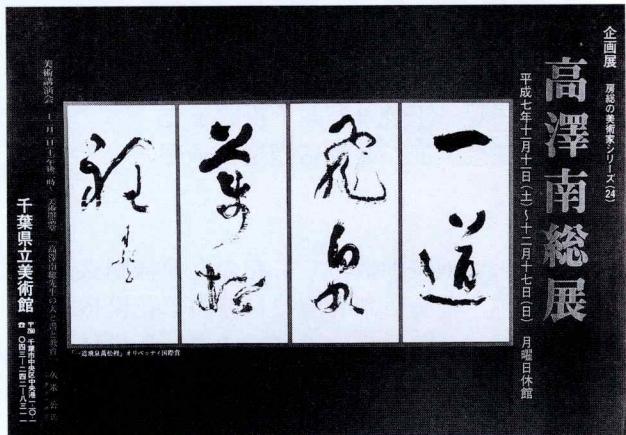
32日間

展示点数 56点

入場者数 35,154人

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住し、美術界の発展や美術振興に貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしている。

第24回として、袖ヶ浦市に生まれ、永く本県書道界の発展に尽力した書家・高澤南総（1911～1992）に焦点をあて回顧した。



1	和漢朗詠集	1934	30	悠々自適	1980
2	雁塔聖教序	〃	31	愛此山邨趣	1981
3	副島種臣詩	1941	32	風神	1982
4	沙邊人釣秋江碧	1947	33	雷神	〃
	林外馬嘶夕照紅		34	聚秀	〃
5	蔭映巖流之際	1949	35	煙霞癖	1983
	偃息琴書之間		36	空山不見人但聞人語響	1984
6	房東之詩（大沼枕山詠）	〃		返景入深林復照青苔上	
7	春風秋月	1965	37	秘境	1984
8	竹	1966	38	愚亦奇也	〃
9	雲心月性	〃	39	咄々逼	〃
10	師道	〃	40	松雲	1985
11	洗耳	1970	41	隨處仙境	〃
12	桃季争妍	〃	42	八面玲瓏	〃
13	乾坤一草堂	1971	43	泰山北斗	1986
14	白雲抱幽石	〃	44	磊落	〃
15	天地吾廬	〃	45	閑古錐	〃
16	慶雲昌光	1974	46	處士風流水石間	1987
17	雲外独歩	〃	47	閉門即是深山讀書隨處淨土	〃
18	潤松抱節	〃	48	一行三昧	〃
19	日新帖	1975	49	湖上蕭々疎雨過山頭靄々暮雲橫	1988
20	山奧水清	〃	50	龍虎	〃
21	蘭在幽林亦自香	〃	51	鐵心	1989
22	一道飛泉萬松裡	1976	52	松竹為心	〃
23	天知地知我知	〃	53	樂意在泉石	〃
24	天衣無縫	1977	54	空	〃
25	天空海闊	1978	55	虛心帖	1990
26	得句烟霞外置身泉石間	〃	56	青山白雲	1992
27	日々新	1979		※No. 39は佐久市立近代美術館蔵	
28	墨縁	〃		No. 7, 12, 28, 29, 50は千葉県立美術館蔵	
29	游於藝	〃			

第19回千葉県移動美術館

会 場	1. 三芳村農村環境改善センター 2. 我孫子市民プラザギャラリー
会 期	1. 11月16日（木）～28日（火） 2. 12月1日（金）～13日（水）
展示点数	1. 44点 2. 44点
入場者数	1. 1,421人 2. 1,556人

本館所蔵作品を中心に、県展受賞作品を一部加えた移動展覧会を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。

千葉県移動美術館

平成26年 11/16～28 10時～17時・会期中休

三芳村農村環境改善センター

我孫子市民プラザギャラリー

会期中休

12/1～13 10時～17時・会期中休

我孫子市民プラザギャラリー

会期中休

普 及 事 業

美術講演会を、展覧会に併せ4回開催した。また、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに「教養講座とヨーロッパの旅」を新規事業として実施し、この講座に関連してヨーロッパの旅を実施した。

さらに、特別展「沖縄の工芸美術」会期中に、ミュージアムコンサート「弦楽による名曲と日本民謡の調べ」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、版画、彫刻（石彫）、工芸（陶芸、金工）、書芸の7種7講座（延67日）を開催した。

図書は、273冊収集した。現在4,800冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

刊行物については展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、館報、年報、事業案内などを刊行した。

そのほか、友の会事業による実技講座4種11講座（延66日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（12大学15人）などに協力した。

（文：吉田義典）

■ 美術講演会

美術に関する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて講演を行った。

(数字は参加者数)

- | | | |
|------------|---------------------------------------|------|
| 1 6月10日(土) | 「ロダン・ブルデル・マイヨール」
下山 肇(静岡県立美術館学芸部長) | 130人 |
| 2 9月30日(土) | 「紅型—風土の生み出した美—」
長崎 巖(東京国立博物館染織室長) | 74人 |
| 3 12月2日(土) | 「高澤南総先生の人と書と教育」
久米 公(千葉大学教育学部教授) | 182人 |
| 4 3月16日(土) | 「浅井忠と近代の図案」
樋田豊次郎(美術評論家) | 85人 |

■ ミュージアムコンサート

特別展「沖縄の工芸美術」の開催に併せ、「弦楽による名曲と日本民謡の調べ」と題して、9月16日、ニューフィルハーモニーーオーケストラ千葉のメンバーを中心にコンサートを行った。

〈演奏曲目〉

弦楽四重奏曲ニ長調「ひばり」(ハイドン)、演奏会用小品集(クープラン)、独奏チェロのためのBUNRAKU(文楽)(黛俊郎)、銚子大漁節(千葉県)、チャッキリ節(静岡県)、谷茶前ぬ浜(たんぢやめ節)(沖縄県)、ていんさぐの花(沖縄県)、チェロと弦楽合奏のための日本民謡集(南部牛追い唄・刈干切り唄・中国地方の子守唄・今様・八木節)(石川皓也)

〈演奏者・司会〉

松下修也(チェロ)／本庄篤子・井口久美(ヴァイオリン)／河野みさ子(ヴィオラ)／館野英司(チェロ)／黒川健(コントラバス)／中里かほり(司会)



■ 教養講座とヨーロッパの旅

□ 教養講座

千葉県立美術館では、昭和49年の開館以来、千葉県ゆかりの日本近代洋画の先駆者である浅井忠を中心とした作品の収集と活動を行ってきた。浅井忠は、バルビゾン派の流れをくむイタリア人画家・フォンタネージから本格的な洋画を学んだ後、渡欧し新たな画風の展開を示した。この教養講座では、「浅井忠の足跡と近代絵画の流れ」をテーマに4回実施し、浅井忠のヨーロッパ時代を中心に、バルビゾン派の絵画をはじめ、ヨーロッパの絵画史の理解を深める機会とした。

(数字は参加者数)

- | | | |
|------------|------------------------------------|------|
| 1 7月1日(土) | 「千葉県立美術館とヨーロッパ美術」
小池 賢博(副館長) | 101人 |
| 2 7月15日(土) | 「ヨーロッパ近代絵画の変遷」
島田 紀夫(実践女子大学教授) | 92人 |
| 3 8月26日(土) | 「近代絵画におけるバルビゾン派の位置」
藤川 正司(普及課長) | 63人 |
| 4 9月9日(土) | 「浅井忠のヨーロッパ時代」
前川 公秀(学芸課長) | 58人 |

□ ヨーロッパの旅

また、この教養講座に参加した受講者を中心に、イタリア・フランスにおける浅井忠の足跡をたどり、各地の代表的な美術館を訪ね、ヨーロッパ美術の理解を深めるために「ヨーロッパの旅」を実施した。

実施期間 11月16日(木)～11月25日(土)

参加者数 29名

主な訪問先

イタリア

ローマ：サンピエトロ寺院、バチカン美術館

フィレンツェ：ウフィチ美術館

トリノ：トリノ近代美術館

ミラノ：サンタマリア・デレ・グラツィエ教会

フランス

フォンテンブロー：バルビゾン村、グレー村

パリ：オランジヌリー美術館、オルセー美術館、ルーブル美術館

■ 実技講座

(1) 日本画講座

期日 平成7年5月16日(火)・17日(水)・
18日(木)・20日(土)・21日(日)・
23日(火)・24日(水)・25日(木)・
27日(土)・28日(日)・30日(火)・
31日(水)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 齊藤 悅氏

受講者数 25人

内容 花、果物、人物等のモチーフにより制作した。岩絵具、にかわ、筆、紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心に学習した。

(2) 洋画講座

期日 平成7年6月8日(木)・9日(金)・
10日(土)・13日(火)・14日(水)・
17日(土)・18日(日)・20日(火)・
21日(水)
(9日間／うち講師の指導日数は6日間)

講師 松沢茂雄氏

受講者数 36人

内容 着衣と裸婦をテーマにデッサン、構図、彩色など油彩画の基礎的技法を学んだ後、より幅広い表現について学習した。

(3) 版画講座

期日 平成7年7月4日(火)・5日(水)・
6日(木)・8日(土)・9日(日)・
11日(火)・12日(水)・13日(木)・
15日(土)・16日(日)・18日(火)・
19日(水)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 増田陽一氏

受講者数 16人

内容 銅板、亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。

(4) 彫刻講座

期日 平成7年10月17日(火)・18日(水)・
19日(木)・20日(金)・21日(土)・
24日(火)・25日(水)・26日(木)・

28日(土)・29日(日)・31日(火)・

11月1日(水)

(12日間／うち講師の指導日数は9日間)

講師 石橋 亘氏

受講者数 12人

内容 白御影石を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。石のみやドリル等各種工具類の取り扱い方を学び、石の彫刻技法や研磨などの幅広い表現方法を学習した。

(5) 陶芸講座

期日 平成7年7月25日(火)・26日(水)・
27日(木)・28日(金)・8月29日(火)・
9月5日(火)・13日(水)
(7日間／うち講師の指導日数は5日間)

講師 鎌田和平氏

受講者数 36人

内容 信楽土を素材として、花瓶、食器、茶碗などを制作した。染め付けや象嵌などの技法をはじめ、粘土、ろくろ、釉薬、窯詰めなどについて学習した。

(6) 書芸講座

期日 平成7年11月7日(火)・8日(水)・
9日(木)
(3日間／うち講師の指導日数は3日間)

講師 宇津木雀聲氏

受講者数 17人

内容 漢字・かなの臨書を通して、書の歴史、書の味わい方、様々な表現方法を学習した。また、手紙やはがきの書き方など、実用書道も学習した。

(7) 金工講座

期日 平成8年1月23日(火)・24日(水)・
26日(金)・27日(土)・28日(日)・
30日(火)・31日(水)・2月1日(木)・
3日(土)・4日(日)・6日(火)・
7日(水)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 小林正利氏

受講者数 20人

内容 動物・人物・生物・風景など自由なテーマで銅板レリーフの制作を行った。タガネの製作や取り扱い方など、レリーフや彫金の基礎的技法をはじめ、着色などについて学習した。

■ 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報を提供した。なお、7年度の収蔵図書については178冊を購入、95冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

（平成8年3月31日現在）

区分	平成6年度まで	平成7年度	計
美術総記	1,372	82	1,454
絵画	1,333	85	1,418
彫刻	223	19	242
工芸	349	9	358
書	150	5	155
版画	118	8	126
デザイン・建築	63	12	75
写真・映像	169	6	175
その他	45	0	45
雑誌（合冊・複刻）	346	8	354
一般図書	359	39	398
合計	4,527	273	4,800

区分	平成6年度まで	平成7年度	計
購入図書	2,504	178	2,682
寄贈図書	2,023	95	2,118
合計	4,527	273	4,800

（展覧会図録を除く）

■ 活動協力

□ 千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員 656人、賛助会員 1人
- (2) 役員 名誉会員 7人、会長 1人
副会長 3人、監事 2人
理事 若干数

3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。
各1,000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第20回葉美会展の開催
会期 平成7年8月22日（火）～8月27日（日）
出品者 32名
展示点数 58点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅
美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
1・日 時 9月29日（金）
2・行 先 新横浜ラーメン博物館
長谷川町子美術館
根津美術館
東京都現代美術館
- 3・参加者数 50人
- (4) 館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
- (5) その他
テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成7年度友の会実技講座

洋画入門講座（1）

期日 5月26（金）・27（土）・28（日）・30（火）・31（水）・6月1日（木）（6日間）
講師 関和弥氏
受講者数 22人

洋画入門講座（2）

期日 6月30日（金）・7月1（土）・2（日）・4（火）・5（水）・6日（木）（6日間）
講師 渡辺晋氏
受講者数 31人

洋画入門講座（3）

期日 8月4（金）・5（土）・6（日）・8（火）・9（水）・10日（木）（6日間）
講師 根岸茂行氏
受講者数 35人

洋画入門講座（4）

期日 9月1（金）・2（土）・3（日）・5（火）・6（水）・7日（木）（6日間）
講師 松澤茂雄氏
受講者数 37人

洋画入門講座(5)

期　　日 10月27(金)・28(土)・29(日)・31(火)・
11月1(水)・2日(木)(6日間)

講　　師 戸田健夫氏

受講者数 28人

洋画入門講座(6)

期　　間 12月8(金)・9(土)・10(日)・12(火)・
13(水)・14日(木)(6日間)

講　　師 関 和弥氏

受講者数 26人

洋画入門講座(7)

期　　間 3月8(金)・9(土)・10(日)・12(火)・
13(水)・14日(木)(6日間)

講　　師 根岸茂行氏

受講者数 33人

日本画入門講座

期　　日 12月5(火)・6(水)・7(木)・8(金)・
9(土)・10日(日)(6日間)

講　　師 斎藤 悅氏

受講者数 23人

版画入門講座

期　　日 1月9(火)・10(水)・11(木)・12(金)・
13(土)・17(水)・18(木)・19(金)・
20(土)・21日(日)(10日間)

講　　師 生田宏司氏

受講者数 20人

デッサン入門講座(1)

期　　日 7月26(水)・27(木)・28(金)・29日
(土)(4日間)

□ 貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
小野具定	遠くなった海 漁村	「小野具定展」	7.4.20～5.21 下関市立美術館	練馬区立美術館 下関市立美術館
堀川恭	聖なる佇立	「堀川恭展」	7.5.25～7.9 井原市立田中美術館	井原市立田中美術館
石井柏亭	信州風景	「戦後50年 疎開作家と信州」展	7.6.23～8.6 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
東山魁夷	春雪 秋深	「米寿記念 東山魁夷展」	7.7.28～8.22 日本橋・高島屋 9.14～9.26 京都・高島屋 10.1～10.29 長野県信濃美術館	日本経済新聞社
浅井忠	老母像	「家族の肖像 —日本のファミリーポートレートー」	7.8.5～9.17 宮城県美術館	宮城県美術館
大久保作次郎	庭の木陰			

講　　師 御園正男氏

受講者数 31人

デッサン入門講座(2)

期　　日 2月29(木)・3月1(金)・2(土)・
3日(日)(4日間)

講　　師 根岸茂行氏

受講者数 33人

□ 博物館実習

各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成7年7月24日～7月29日

跡見学園女子大学2人、学習院大学2人、金沢美術工芸大学1人、共立女子大学1人、群馬県立女子大学1人、女子美術大学1人、千葉大学1人、東京造形大学1人、トキワ松女子短期大学1人、名古屋芸術大学1人、法政大学1人、明治学院大学2人(計15人)

□ その他

平成7年5月24日～6月17日

読売新聞に特別展「マイヨール展」開催に伴う原稿提供。5回連載。

平成7年9月15日～29日

千葉日報に特別展「沖縄の工芸美術」開催に伴う原稿提供。5回連載。

平成8年3月17日～23日

千葉日報に常設展「浅井忠」開催に伴う原稿提供。5回連載。

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
椿 貞雄 石 井 柏亭	八重子像 晩春行楽図			
フォンタネージ 浅 井 忠 松 岡 寿 研究資料	川辺の二頭の牛 羊飼いの少女 牛を追う農婦 藁屋根 フォンテンブローの夕景 農婦 婦人像 沢入駅 フォンテンブローの森 京都高等工芸学校の庭 女の顔（模写） 鍛冶橋 野菜 曳舟通り 樹 樹 I 桶とせいろ はたらく婦人 千石船 森と小川 新按小學畫手本（第1篇） 彩画初步（第1, 2, 3 篇） 修正新案小學畫手本 (第1, 5 篇) 中等習畫帖（後編第4 卷） 小学鉛筆画帖（高等科甲種第1, 2編. 乙種4編） 中学鉛筆画手本（第1, 4, 5編） 新編自在画臨本（全8 編） 訂正浅井自在画臨本（全6編）	「若き日の日本美術 —明治期の図画教科書と画家 たち—」展	7.8.6~9.8 茨城県近代美術館	茨城県近代美術館
後 藤 純 男	山門雨後	「後藤純男展」	7.9.5 ~9.10 日本橋三越 11.23~12.24 呉市美術館	読売新聞社
高 畑 郁 子	メスティーソの女達	「日本画・心象と幻想の世界、 高畑郁子展」	7.9.29~10.22 福井県立美術館	福井県立美術館
酒 井 亜 人 東 山 魁 夷	晩秋 門	「昭和20年代の日本画 —新しい美の創造をめざして—」	7.10.6~11.5 島根県立博物館	島根県立博物館
コ 口 一 デ イ ア ズ ル ゾ 一 トロワヴィヨン ミ レ 一	フォンテンブローの風景 森の中の農婦 バルビゾンの農場 河辺の道 垣根に沿って草を食む羊	バルビゾンの発見 —ミレー、コローが愛した自 然と生活—	7.11.11 ~12.23 兵庫県立近代美術館 8.1.5~2.12 静岡県立美術館 2.22~3.24 北九州市立美術館 (兵庫県立近代美術館に2週 間のみ)	兵庫県立近代美術館 静岡県立美術館 北九州市立美術館
浅 井 忠 柳 源 吉	A Pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	「映画生誕百年記念展 映画伝来ーシネマグラフと <明治の日本>」	7.12.5~8.1.21 渋谷区立松濤美術館 8.2.3~3.24 兵庫県立近代美術館	渋谷区立松濤美術館 兵庫県立近代美術館 福岡県立美術館 朝日新聞社
秋 元 松 子 ク ー ル ベ	静物 ナポリ近郊の思い出	「秋元松子展」 「印象派の誕生展」	8.1.6~2.4 流山市立博物館 8.3.30~4.30 東武美術館	流山市教育委員会 東武美術館

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画5点、洋画13点、工芸16点、書14点、版画5点、研究資料21点を新たに収藏した。この他、基金により浅井忠「漁婦」、梅原龍三郎「純子像」を購入した。

■ 収蔵資料 (※寸法はセンチメートルを単位とし、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示。)

〈日本画〉

- 1 浅井 忠 風景 1902~07
紙本着彩 21.0×18.2
- 2 石井林響 白閑鳥 1924~25
紙本着彩・2面1組
各168.0×85.5
- 3 小野具定 記憶の風景(夜) 1994
紙本着彩 97.0×162.1
- 4 富取風堂 雛妓納涼図 1926
紙本着彩 57.5×70.8
- 5 松岡映丘 後少将義孝 1994
紙本着彩 125.0×31.4

〈洋画〉

- 1 浅井 忠 本と花 1989
紙・水彩 17.1×24.3
- 2 伊原宇三郎 曇り日の丘
キャンバス・油彩 46.0×38.0
- 3 大野隆徳 裸婦 1933
キャンバス・油彩 91.0×73.0
- 4 岡田三郎助 テッサン(裸婦)
紙・コンテ 24.0×6.0
- 5 椿貞雄 牡丹 1920
キャンバス・油彩 60.5×50.0
- 6 椿貞雄 夏之路傍 1921
キャンバス・油彩 38.0×45.5
- 7 椿貞雄 垣根のある風景 1919
キャンバス・油彩 53.0×40.5
- 8 服部正一郎 海鹿島山 1957
キャンバス・油彩 123.4×97.5
- 9 原勝郎 横向きの夫人像 1948
キャンバス・油彩 46.0×38.0
- 10 原勝郎 樹 1955
キャンバス・油彩 45.5×53.0
- 11 原勝郎 畑 1955
キャンバス・油彩 53.0×65.5
- 12 原勝郎 窓と静物 1955
キャンバス・油彩 91.0×65.0
- 13 原勝郎 山 1955
キャンバス・油彩 45.5×61.0

〈工芸〉

- 1 青木滋芳 洞門 1965
染色・屏風(2曲1隻)
各180.0×90.0
- 2 青木滋芳 寂 1970
染色・屏風(2曲1隻)
各180.0×90.0

- | | | |
|---------|----------------|----------------|
| 3 香取秀真 | 瑞鳥飾三足鑪 | 高さ21.0cm |
| | 鋳金 | 17.0×12.7 |
| 4 香取秀真 | 盃 | |
| | 鋳金・5点1組 | 各2.0×6.9 |
| 5 香取秀真 | 龍 | 1937 |
| | 鋳金 | 10.0×45.0×7.0 |
| 6 香取正彦 | 未広花入 | |
| | 鋳金 | 21.7×9.8 |
| 7 香取正彦 | 卓鈴 | 1971頃 |
| | 鋳金 | 13.0×5.2 |
| 8 香取正彦 | 花器 | |
| | 鋳金 | 20.7×11.0 |
| 9 香取正彦 | 臘銀花瓶 | |
| | 鋳金 | 25.3×14.0 |
| 10 高村豊周 | 香炉 | |
| | 鋳金 | 7.1×14.9 |
| 11 津田信夫 | 兔 | 1939 |
| | 陶芸(素焼き) | 5.5×9.7×5.0 |
| 12 津田信夫 | 竜 | 1940 |
| | 陶芸(素焼き) | 4.7×20.8×3.5 |
| 13 津田信夫 | 鹿 | |
| | 鋳金 | 40.0×30.3×14.5 |
| 14 津田信夫 | 水牛 | |
| | 鋳金 | 5.0×12.0×7.8 |
| 15 土肥刀泉 | 銅彩牡丹文扁壺 | |
| | 陶芸 | 17.0×18.0×14.5 |
| 16 根箭忠緑 | 牛 | |
| | 鋳金 | 9.5×24.0×12.5 |
| 〈書〉 | | |
| 1 石井雙石 | 久遠寺印 | 1965 |
| | 篆刻・朱文・石印 | 7.5×7.6 |
| 2 大野虛舟 | 天靈地氣一騰 | 1992 |
| | 紙・墨・顔料 | 151.0×94.0 |
| 3 大野虛舟 | 阿吽 | 1985 |
| | 紙・墨・顔料 | 182.0×105.0 |
| 4 大野虛舟 | 子供の情景-記号探しのパズル | 1985 |
| | 紙・墨・顔料 | 82.0×150.0 |
| 5 小暮青風 | 天地茫茫 | 1993 |
| | 紙・墨 | 224.3×60.0 |
| 6 小暮青風 | 無何有 | 1993 |
| | 紙・墨 | 52.6×183.9 |
| 7 小暮青風 | 春野尔 | 1993 |
| | 紙・墨 | 183.0×45.5 |
| 8 小暮青風 | 命(法句経) | 1994 |
| | 紙・墨 | 39.6×60.0 |

9	高澤南総	一道飛泉萬松裡 紙・墨・屏風(4曲1隻) 各152.0×69.0	1976	6	石井雙石	六書通索引 紙 28.0×20.0
10	高澤南総	閉門即是深山 読書隨處淨土 紙・墨 6面1組 各290.0×150.0	1987	7	石井雙石	詩索(下) 紙 28.0×20.0
11	津田信夫	壺中乾坤 紙・墨 28.0×84.0	1934	8	石井雙石	書品索引 紙 27.5×20.0
12	津田信夫	木人不近獅子吼 紙・墨 134.7×32.0	1938	9	石井雙石	古文未詳誌 紙 18.0×25.7
13	津田信夫	相識滿天下知心触幾人 紙・墨 134.7×31.5	1946	10	石井雙石	部首 紙 21.3×13.7
14	豊道春海	艸書禪語 紙・墨 34.0×27.8	1958	11	石井雙石	印影カード 紙 一括
				12	石井雙石	石井雙石使用印床 木 2点 18.8×17.0×11.0
<版画>						
1	浜口陽三	白菜 紙・銅版 29.5×44.0	1960	13	津田信夫	ラジエーターの装飾(部分) 1929 鋳金 63.0×99.0
2	浜口陽三	レダ 紙・銅版 18.0×24.0	1951	14	津田信夫	津田信夫旧蔵写真アルバム 1923~25 11点
3	増田陽一	森の生活 紙・銅版 60.0×84.2	1993	15	山室百世	山室百世作品下巻スケッチブック 1933~65 紙8点
4	増田陽一	植物の窓 紙・銅版 60.0×84.2	1994	16	山室百世	山室百世旧蔵石膏像 石膏5点
5	増田陽一	すみれ色の謎 紙・亜鉛凹版 60.0×84.2	1995	17	山室百世	山室百世旧蔵エジプト風彫刻模造 鋳金 14.8×8.0×9.5
				18	山室百世	山室百世旧蔵模写帖 紙4点
<研究資料>						
1	石井雙石	雕蟲 紙 一括(332点) 14.5×8.5	1911~50	19	山室百世	山室百世旧蔵戸箱 竹 9.0×12.5×12.2
2	石井雙石	石井雙石関係アルバム 紙 2点	1955頃	20	山室百世	山室百世旧蔵資料写真帖 16点
3	石井雙石	雙石詩稿 紙 20.8×14.3		21	山室百世	仿製鏡 鋳金19点
4	石井雙石	石井雙石旧蔵スクラップ 紙 6点		<千葉県美術品等取得基金>		
5	石井雙石	石井雙石スケッチブック 紙 10点 15.0×21.5		1	浅井忠	漁婦 1897 キャンバス・油彩 57.7×83.5
				2	梅原龍三郎	純子像 1968 キャンバス・油彩 78.0×64.0

収蔵資料数一覧

平成8年3月31日現在

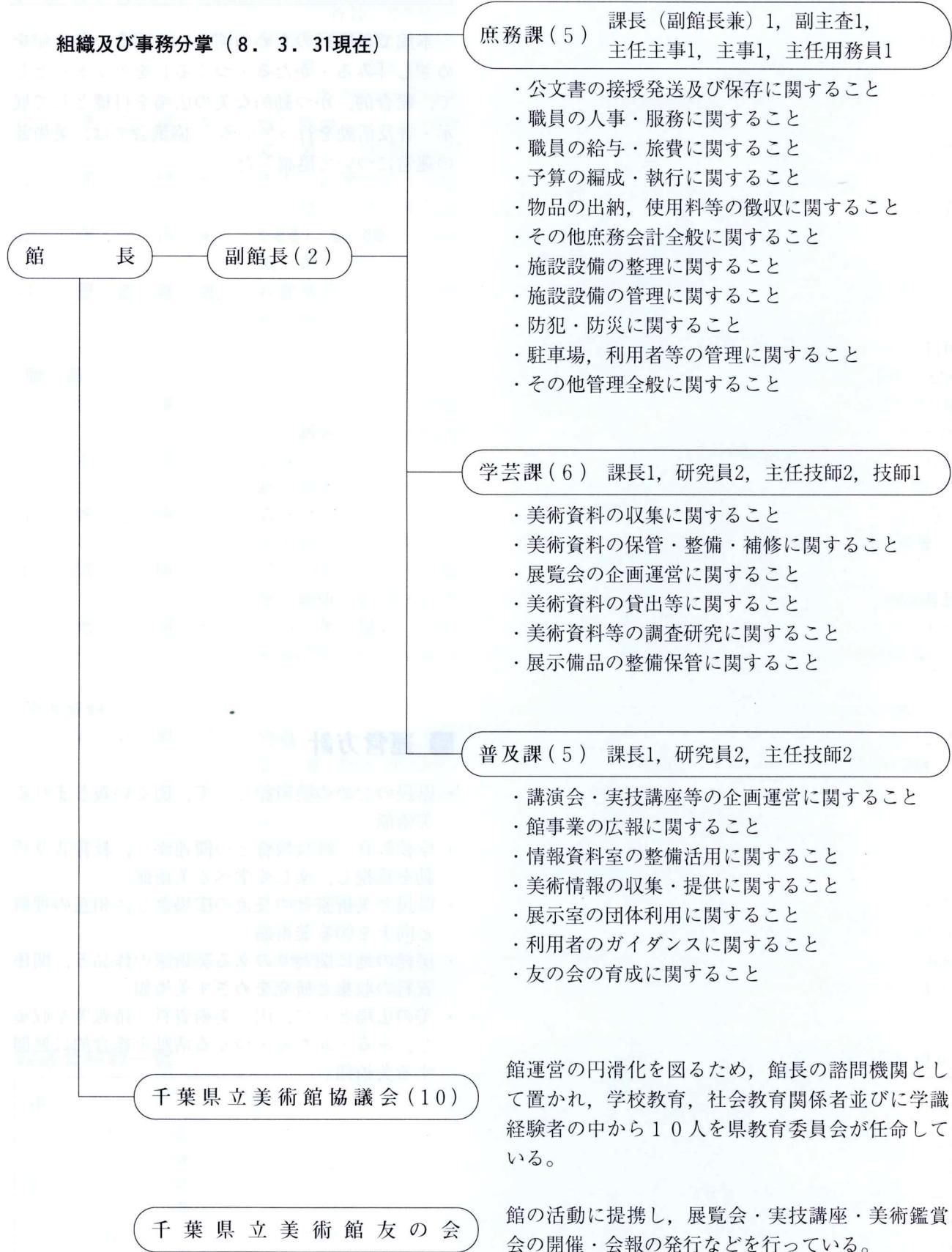
種別	番号	購入	寄附	保管換	合計
日本画		109	134	26	269
洋画		329	382	41	752
彫刻		79	25	11	115
工芸		127	110	10	247
書		109	75	14	198
版画		151	51	5	207
合計		904	777	107	1,788
研究資料		243	1,237	53	1,533

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目指して展示・普及活動を行っている。協議会では、美術館の運営について協議した。

■ 運営方針

- ・ 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- ・ 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- ・ 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- ・ 房総の地に関わりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- ・ 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

■ 機構



■ 平成 7 年度職員

館 長	木 村 卓 (~7. 5. 31)	池 田 敏 男 (~7. 6. 30)	千葉県教育研究会造形部会長
夕	渡 邊 猛 彦 (7. 6. 1~30)	石 川 陸 郎	東京国立博物館学芸部保存修復管理官
夕	森 成 吉 (7. 7. 1~)	(7. 7. 1~)	
副 館 長	小 池 賢 博	垣 畑 利 光 (~7. 6. 30)	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
副 館 長 兼庶務課長	桐 谷 正 義	石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事
庶務課			
副 主 着 (派)	大 堀 昭 一	久 米 公	千葉大学教育学部教授
主任主事 (夕)	積 田 秀 樹	(7. 7. 1~)	
主 事 (夕)	川 内 啓 子		
主任用務員 (夕)	長 島 則 子	久保田 芳 彦 (7. 7. 1~)	日本放送協会千葉放送局長
普 及 課			
普及課長	藤 川 正 司	齋 藤 志貴雄	前千葉県立千葉東高等学校長
研 究 員 (派)	濱 田 芳 久		
夕 (夕)	金 田 雅 成	新 城 瑞 璃	ネスコ (株) 相談役 (千葉県立美術館友の会副会長)
主任技師 (夕)	相 川 順 子		
夕 (夕)	中 松 れ い	長谷川 昂	千葉県美術会長
学 芸 課			
学芸課長	前 川 公 秀	藤 井 チズ子	共立女子大学文芸学部非常勤講師
研 究 員 (派)	高 橋 正 夫		
夕 (夕)	太 田 武 彦	松 本 哲 哉 (7. 7. 1~)	千葉県教育研究会造形部会長
主任技師 (夕)	幅 大		
夕 (夕)	加 瀬 綾 子	水 野 量 司 (7. 7. 1~)	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
技 師 (夕)	三 浦 拓 郎		
嘱 託	杉 山 進	山 下 賴 充 (~7. 6. 30)	日本放送協会千葉放送局長
		若 桑 みどり (~7. 6. 30)	千葉大学文学部教授

■ 利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人 数 合 計	備 考		
		一般 成 人	大・ 高 生	中・ 小 生	一般成人		大・高生		中・小生					
					人 数	團 体 数	人 数	團 体 数	人 数	團 体 数				
4	26	6,530	174	604	94	3	0	0	61	2	7,463			
5	26	18,907	529	1,963	503	15	0	0	61	2	21,963	特別展5/27~7/2 「マイヨール展」		
6	26	12,192	1,027	2,749	480	13	217	2	54	2	16,719			
7	26	9,925	257	2,180	393	8	0	0	33	1	12,788			
8	27	11,393	536	3,183	181	5	0	0	21	1	15,314			
9	26	11,668	661	2,757	335	6	111	2	266	3	15,798	特別展9/9~10/8 「沖縄の工芸美術」		
10	22	16,354	390	2,721	1,237	23	200	1	0	0	20,902			
11	25	11,769	894	2,867	324	10	100	1	144	3	16,098			
12	21	15,840	176	9,010	449	16	0	0	67	3	25,542			
1	23	6,273	96	571	283	4	0	0	0	0	7,223			
2	25	7,528	604	1,736	113	4	44	1	0	0	10,025			
3	21	5,417	291	894	98	3	0	0	0	0	6,700			
計	294	133,796	5,635	31,235	4,490	110	672	7	707	17	176,535			

開館以来 総開館日数 6,230日 総入館者数 3,646,507人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外 国 人
		千葉市	その 他	東京 都	その 他	
4	26	3,387	3,250	363	454	9
5	26	9,915	9,816	912	1,296	24
6	26	7,959	7,949	248	556	7
7	26	5,522	6,491	261	499	15
8	27	5,927	8,054	371	926	36
9	26	7,584	6,417	426	1,359	12
10	22	9,372	10,375	502	624	29
11	25	5,747	9,244	355	723	29
12	21	4,363	20,635	268	275	1
1	23	2,880	3,312	225	800	6
2	25	3,583	5,384	403	642	13
3	21	2,599	3,374	230	473	24
計	294	68,838	94,301	4,564	8,627	205

■ 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

No.	展 覧 会 名	期間	作 品 種 別	展示点数
1	第32回全日本総合書道大展覧会	4/4-9	書	715
2	第6回千葉県木彫会	4/11-12	彫刻	33
3	第19回鳳聲会書作展	4/11-16	書	105
4	第26回表美展	4/12-13	表装・額装・屏風	128
5	第9回ガラス絵コクリコ会展	4/12-13	ガラス絵	41
6	第65回郷陽会展	4/18-23	洋画	161
7	MUSABI展	4/25-30	日本画・洋画・工芸・デザイン・その他	53
8	第22回千葉新協展	4/26-27	洋画	84
9	第21回歩会彫刻展	4/25-5/7	彫刻	45
10	第9回千葉水彩展	5/2-7	洋画	86
11	日本ペン字教育会創立35周年記念書道展	5/2-7	書	300
12	第35回千葉アマチュア美術会展	5/9-14	絵画・書・彫刻・版画・工芸・デザイン・その他	1,414
13	第13回日中友好書道展	5/16-21	書	2,307
14	第19回墨の県展	5/23-28	水墨画・日本画・洋画・書・写真	207
15	第40回記念二科会千葉支部展	5/30-6/4	洋画	975
16	第21回模展	5/30-6/1	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真	66
17	第42回千葉県書道協会展	6/6-11	書	499
18	第22回千虹会日本画展	6/6-18	日本画・版画	40
19	千葉幼児美術展	6/13-18	絵画	1,900
20	第18回千葉一陽展	6/13-18	洋画・彫刻	155
21	第17回新槐樹社千葉県支部展	6/13-18	書	46
22	第20回関東全展	6/20-25	日本画・洋画	175

No.	展 覧 会 名	期間	作 品 種 別	展示点数
23	第10回日本画四季展	6/20-7/2	日本画	74
24	第23回水彩連盟千葉支部展	6/27-7/2	洋画	58
25	千葉二紀展	〃	〃	80
26	第39回千葉県小中学校書写展	7/4-9	書	1,400
27	〈明日を拓く〉教育美術展	〃	児童画	1,500
28	第9回カラーダスト展	〃	洋画	60
29	第18回精銳展	〃	〃	76
30	第27回千葉市水墨画同好会連合会展	7/11-23	水墨画	486
31	第12回千葉中美展	7/25-30	日本画・洋画	52
32	第87回習美会初夏大作展	〃	日本画・洋画・水墨画	170
33	日本水彩画会第11回千葉県支部展	〃	洋画	66
34	第29回漱雲会全国書道展	〃	書	594
35	第16回龍峽書道会千葉展	8/1-6	〃	391
36	第24回写真千葉県展	8/1-13	写真	370
37	第25回いてふ会彫刻展	〃	彫刻	41
38	第5回太平洋美術会千葉支部展	8/8-13	洋画・彫刻・工芸	158
39	第9回白亜美術協会千葉支部展	〃	洋画	42
40	第35回白扇書道会展	8/15-20	書	3,883
41	第15回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8/22-27	〃	145
42	第23回千葉市教職員美術展	〃	洋画・彫刻・書・その他	196
43	第20回葉美会展	〃	日本画・洋画・写真	66
44	第12回「美しい郷土」絵画コンクール	〃	児童画	683

No.	展 覧 会 名	期間	作 品 種 别	展示点数
45	'95第一美術協会千葉県支部展	8/29-9/3	洋画・彫刻・工芸	116
46	第25回新構造千葉支部展	〃	洋画・彫刻・工芸・写真	144
47	第33回新世紀美術協会千葉支部展	〃	洋画	66
48	第18回等迦会千葉支部展	9/5-10	〃	52
49	第28回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	〃	写真	376
50	第11回日本書道学会千葉県連展	〃	書	50
51	第27回ファンシー洋画展	9/12-17	洋画	81
52	第22回文化書道千葉県連合会公募展	〃	書	523
53	千葉県写真展	9/12-24	写真	141
54	第45回デザインフェスタCHIBA	9/19-24	デザイン	59
55	第42回千葉県勤労者美術展	〃	日本画・洋画・書・写真	213
56	第38回千葉市小中養護学校児童生徒総合展	9/26-10/1	絵画・彫刻・工作・その他	4,247
57	第6回千葉県教育芸術祭	10/3-8	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・その他	760
58	第15回二科会写真部千葉支部展	〃	写真	75
59	第47回千葉県美術展覧会(県展)	10/14-11/5	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,535
60	千葉県高校芸術祭「美術・工芸・書道作品展」	11/8-19	絵画・彫刻・工芸・書・デザイン・その他	3,328
61	千字会書展	11/21-26	書	112
62	第27回千葉現展	〃	洋画・工芸	88
63	ダネラ展	〃	工芸	45
64	「ファームピア'95 in ちば」記念絵画コンクール	〃	絵画	1,073
65	第40回こども県展	11/28-12/10	絵画	11,323
66	第13回明るい社会づくりポスター конкурс展	12/12-17	ポスター	1,200

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ单管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に单管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に单管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海滨に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV(定風量型) + VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源により全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の構型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx(平均)以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx(薄暗)から5,000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエチレン(通過率53.6%)と黒地のジョーゼット(通過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

<設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

<施工者>

建築:(株)竹中工務店

設備:空調=東洋熱工業(株)

衛生=第一管工事(株)

電気=関東電気工事(株)

備品:天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

<都市計画地域指定>

用途地域:準工業地域

<規模・面積>

敷地面積 33,057.87m²

建築面積 8,777.94m²

延床面積 10,663.57m²

展示棟 6,343.02m²

管理棟 2,818.89m²

県民アトリエ棟 1,501.66m²

駐車台数 97台

〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事 (展示棟) 5,194.59m²
(建築面積5,102.35m²)

○工 期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事 (管理棟) 2,274.60m²

(建築面積1,089.50m²)

○工 期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事 (県民アトリエ) 1,501.66m²

(建築面積1,449.34m²)

○工 期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工 期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事 (第8展示室) 148.43m²

収蔵庫544.29m²) 1,692.72m²

(建築面積1,136.75m²)

○工 期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355.267千円

工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	332.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

〈概要〉

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底: GL - 5.00 m

高さ: GL + 15.20 m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋根: 鉄骨造

主鋼材: SS41 及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート (基礎・地中梁・1階スラブ)

Fc = 210 kg/c m²

B種・軽量コンクリート (梁・スラブ用・地上部)

Fc = 300 kg/c m²

C種・軽量コンクリート (地上部躯体でAB以外の
梁・壁など) Fc = 240 kg/c m²

【外部仕上げ】

外壁: 器質タイル、一部コンクリート打放し

屋根: 勾配屋根=アスファルトルーフィンシート、天
然スレート3枚葺

陸屋根=アスファルト防水、押えコ

ンクリート、豆砂利打込み

開口部: オーダーメイド自然発色サッシュ、一部型鋼グ
ラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室: 床=ビニールホモジニアスタイル

床=自然石 (北木島御影) 円盤摺および本磨
(第7室) 置敷きタイルカーペット (第8室)

壁=石綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、
塗装仕上げ

壁=コンクリート碎り仕上げ (第7室)

天井=岩綿吸音板、塗装仕上げ

天井高=3,240～13,500 mm

事務室: 床=ビニールホモジニアスタイル

壁=プラスチック塗装仕上げ

天井=岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高=3,400 mm

収蔵庫: 床=フローリングブロック

壁・天井=米杉 (第1・2室) 桐 (第3・4室)

天井高=3,400 mm

講堂: 床=置敷カーペット

壁=マコレ練付け

天井=クロス張り

第1・第2アトリエ:

床=ビニールアスペクトタイル

壁=コンクリート打塗装仕上げ

天井=軟質石綿板

研修室: 床=ビニールアスペクトタイル

壁=クロス張り

天井=岩綿吸音板

和室:床=玄晶石水磨き、タタミ、桧家甲板
壁=京じゅらく塗
天井=杉柾ベニヤ目透シ、竿縁天井

設備

【電気設備】

受電方式:交流3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式:64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=CAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式

管理棟=VAV方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源:空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水:ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水:汚水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系統(管径300)別、公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式:自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式:屋外・屋内消化栓、不燃性ガス消化設備(ハロゲン1301)

自家発電:ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力100kVA

火災報知設備:P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備:ITVカメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備:荷物用エレベーター

規模:容量3,000kg,

カゴ内法=3,000mm×3,000mm×3,000mm,

速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40m ²
クローケ	91.80 m ²
倉庫A	2.70m ²
ク B	〃
第1展示室	437.76m ²
ク2	400.32m ²
ク3	469.08m ²
ク4	403.20m ²
ク5	824.19m ²
ク6	330.58m ²
ク7	566.56m ²
ク8	864.61m ²
食堂	119.52m ²
厨房	36.00m ²
従業員控室	17.28m ²
食堂ホール	49.20m ²
ミュージアムショップ	12.00m ²
ロビ	335.52m ²
第1休憩室	23.04m ²
ク2	ク
ク3	ク
便所A	30.24m ²
クB	23.76m ²
身障者用便所	7.92m ²
コントロール室	20.16m ²
フィルター室	28.92m ²
工作室	31.00m ²
発電気室	25.00m ²
電気室	123.20m ²
ポンプ室	76.80m ²
機械室	305.20m ²

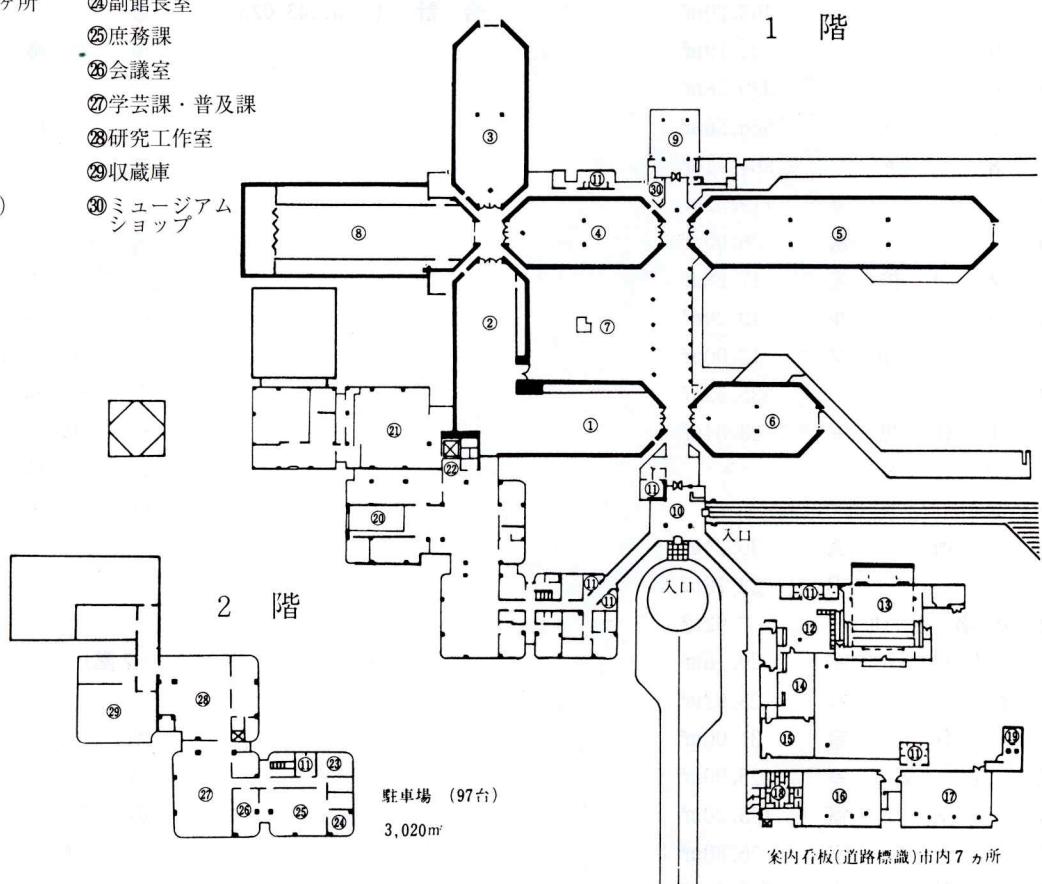
管理棟

(1階)	
機械室(新)	283.82m ²
高架水槽室	11.46m ²
E.V機械室	27.28m ²
E.V廻り	54.56m ²
ダクトスペース	35.68m ²
廊下等	123.48m ²
合計①	6,343.02m ²
(2階)	
第2会議室	22.62m ²
更衣室	14.83m ²
医務室	21.18m ²
書庫	22.02m ²
警備員室	43.59m ²
第1会議室	20.15m ²
倉庫	7.19m ²
湯沸室	5.19m ²
便所	24.54m ²
宿直室	34.20m ²
物置	9.92m ²
公用務員室	31.83m ²
審査室・資料準備室・荷解室	520.68m ²
消毒室	31.79m ²
資料倉庫	124.25m ²
荷解梱包室	52.67m ²
荷扱人室	21.94m ²
機械室	51.74m ²
廊下等	123.52m ²
小計	1,183.85m ²
(2階)	
館長室	33.27m ²
副館長室	23.42m ²
第1応接室	14.67m ²
第2応接室	14.55m ²
庶務課室	112.34m ²
会議室	43.84m ²

学芸課・普及課室	195.32m ²	*展示室総面積	4,296.30m ²	アトリエ側便所	20.77m ²
学芸相談室	23.91m ²	*収蔵庫総面積	771.50m ²	荷解室	25.65m ²
研究工作室	216.49m ²			窯場	27.17m ²
写真スタジオ	54.30m ²			窯場倉庫	6.66m ²
器材室	6.74m ²	1F機械室	25.92m ²	ホールその他	352.67m ²
暗室	12.19m ²	講堂倉庫	8.64m ²		
第1収蔵室	184.40m ²	講堂	259.24m ²	合計③	1,501.66m ²
タ2	タ3	コントロール室	30.33m ²		
E.V前室	16.39m ²	情報資料室	172.77m ²	総合計	10,663.57m ²
便所	21.50m ²	情報資料室倉庫	4.70m ²	(①+②+③)	
湯沸室A	3.24m ²	事務室	22.76m ²		
タB	6.87m ²	研修室	74.70m ²		
廊下等	60.94m ²	研修室倉庫	4.23m ²		
ダクトスペースその他	3.56m ²	第1アトリエ	155.70m ²		
小計	1,635.04m ²	タ2	184.31m ²		
合計②	2,818.89m ²	タ3	95.47m ²		

内容

- ①～⑧展示室
- ⑨食堂(44席)
- ⑩玄関ホール
- ⑪トイレ
男子用6ヶ所
女子用6ヶ所
身体障害者用2ヶ所
- ⑫ホール
- ⑬講堂(200人)
- ⑭情報資料室
火～金
12:30～16:30
- ⑮研修室(40人)
- ⑯～⑯実技室
- ⑯窯場
- ⑰搬出入口
- ⑱機械室
- ⑲エレベーター
- ⑳館長室
- ㉑副館長室
- ㉒庶務課
- ㉓会議室
- ㉔学芸課・普及課
- ㉕研究工作室
- ㉖収蔵庫
- ㉗ミュージアムショップ



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるとときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日に関する法律に規定する休日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ぜることができる。

一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為すること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

（以下省略）

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行事等	施設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者 (介護者を含む。) 又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

利 用 案 内

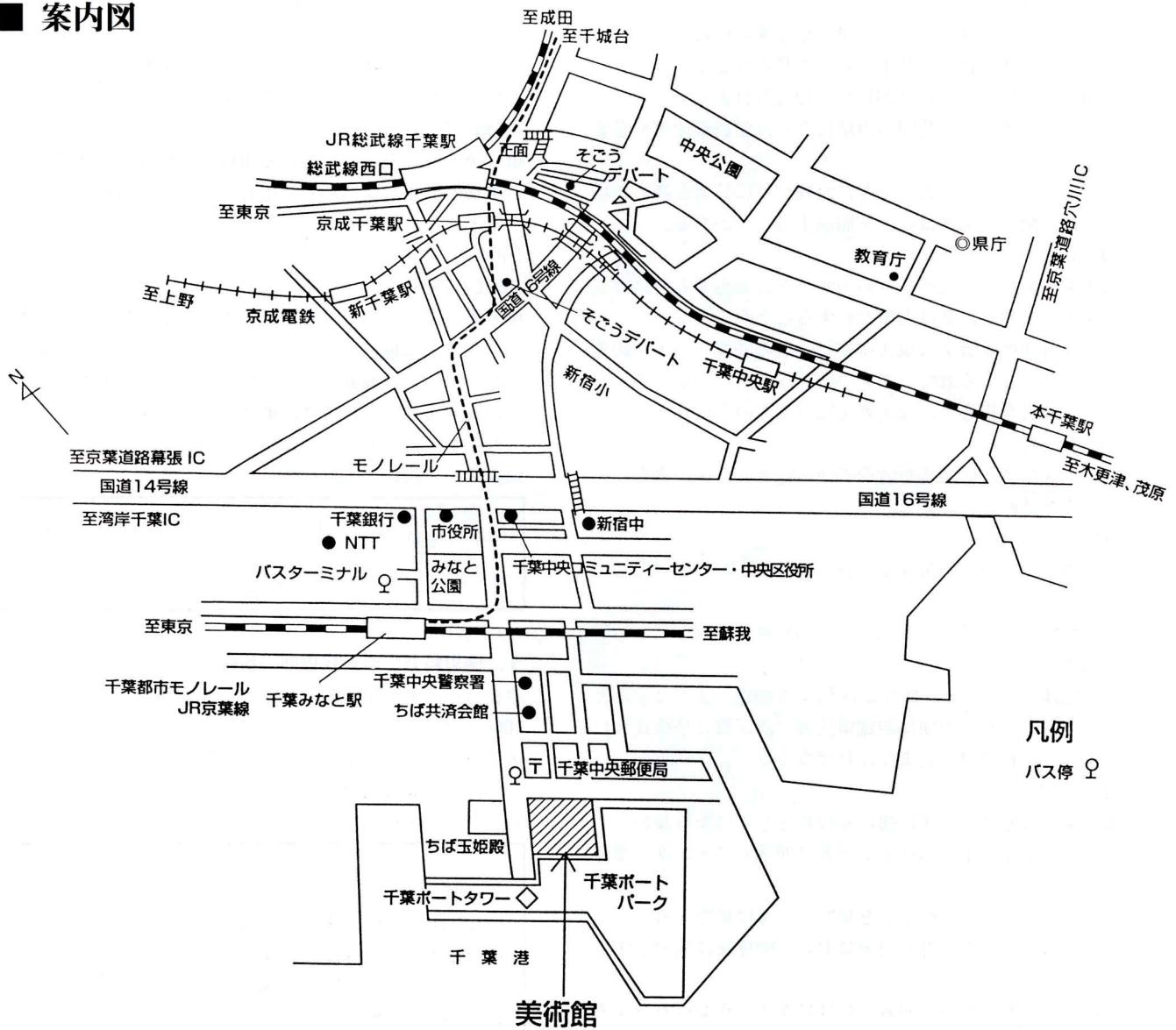
■ 開館時間

- 開館時間 午前9時から午後4時30分まで
休館日
・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
・年末年始（12月26日～1月4日）
・展示替え等のため、必要があるとき。
観覧料
・無料（ただし、特別展は有料）

■ 交 通

- ★JR総武線・京成線「千葉」駅下車
●徒歩23分。
●バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車、徒歩1分。
★JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車、徒歩8分。

■ 案内図



千葉県立美術館年報（平成7年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

TEL 043(242)8311

印刷 株式会社 集贊舎





